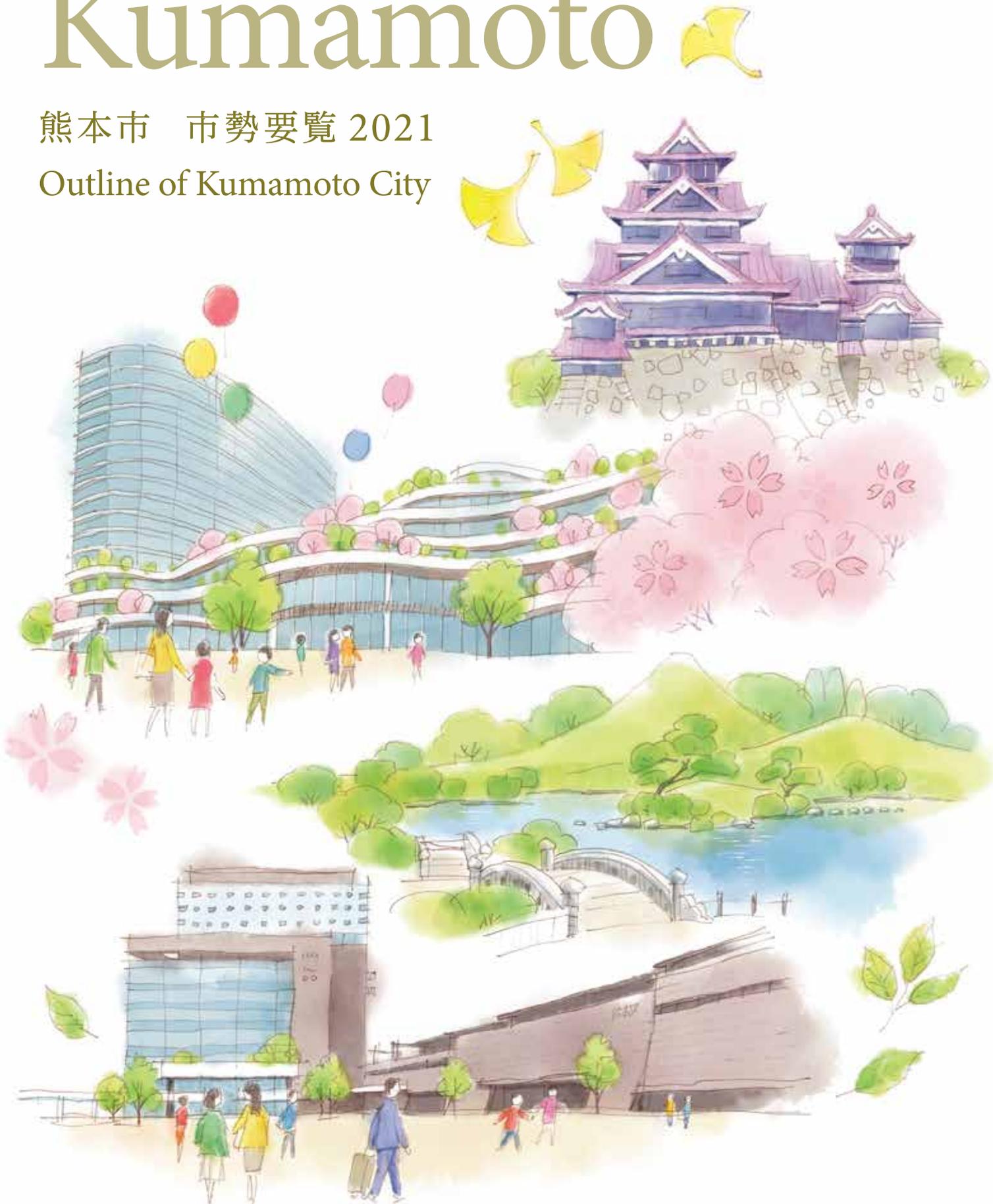


# City of Kumamoto

熊本市 市勢要覽 2021

Outline of Kumamoto City



## 発刊にあたって



熊本市は清らかな地下水や豊かな緑などの自然環境に恵まれ、熊本城をはじめとする優れた歴史遺産と伝統文化を受け継ぐ九州中央の拠点都市です。

本市では、先人たちが築いてきたこの“ふるさと熊本”を大切に受け継ぎ、本市が持つ可能性を最大限に活かしながら、市民の皆様とともに活力と魅力あふれるまちづくりに取り組んでいます。

ご承知のとおり、本年4月で熊本地震の発生から5年の節目を迎えました。これまで、市民の皆様とともに復旧・復興に取り組んできた結果、仮設住宅等への入居者も99%以上の方が住まいを再建されたほか、「復興

のシンボル」である熊本城の天守閣も完全復旧するなど、復興への歩みを着実に進めております。

また、昨年来、全世界で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症への対応では、国や県、医療機関等との連携のもと、市民の皆様の命と生活を守り、地域経済を支えるべく、様々な緊急対策を講じるなど、刻々と変化する状況に柔軟に対応し、必要な施策を迅速かつ適切に実施しているところです。

このような厳しい状況下においても熊本の未来を支える礎を築き、誰もが安心して暮らせるまちを創るため、熊本地震の経験と教訓を活かした災害に強いまちづくりを進めるとともに、第7次総合計画に掲げるまちづくりの重点的取組を加速させてまいります。

そして、「上質な生活都市」の実現を目指すとともに、県全体の発展に向け、一層中核的な役割を担うべく、市民力・地域力・行政力を結集し、全力で取り組んでまいりたいと考えております。

この「熊本市 市勢要覧2021」が皆様方に本市の取組をご理解いただく一助となれば大変幸いに存じます。

令和3年（2021年）8月 熊本市長 大西 一史



令和3年3月 熊本駅白川口駅前広場完成



令和元年9月 桜町地区再開発施設開業



## 〈熊本市自治基本条例〉

個性豊かで活力に満ちた熊本市をみんなで築いていくために、熊本市自治基本条例を平成22年（2010年）4月に施行しました。

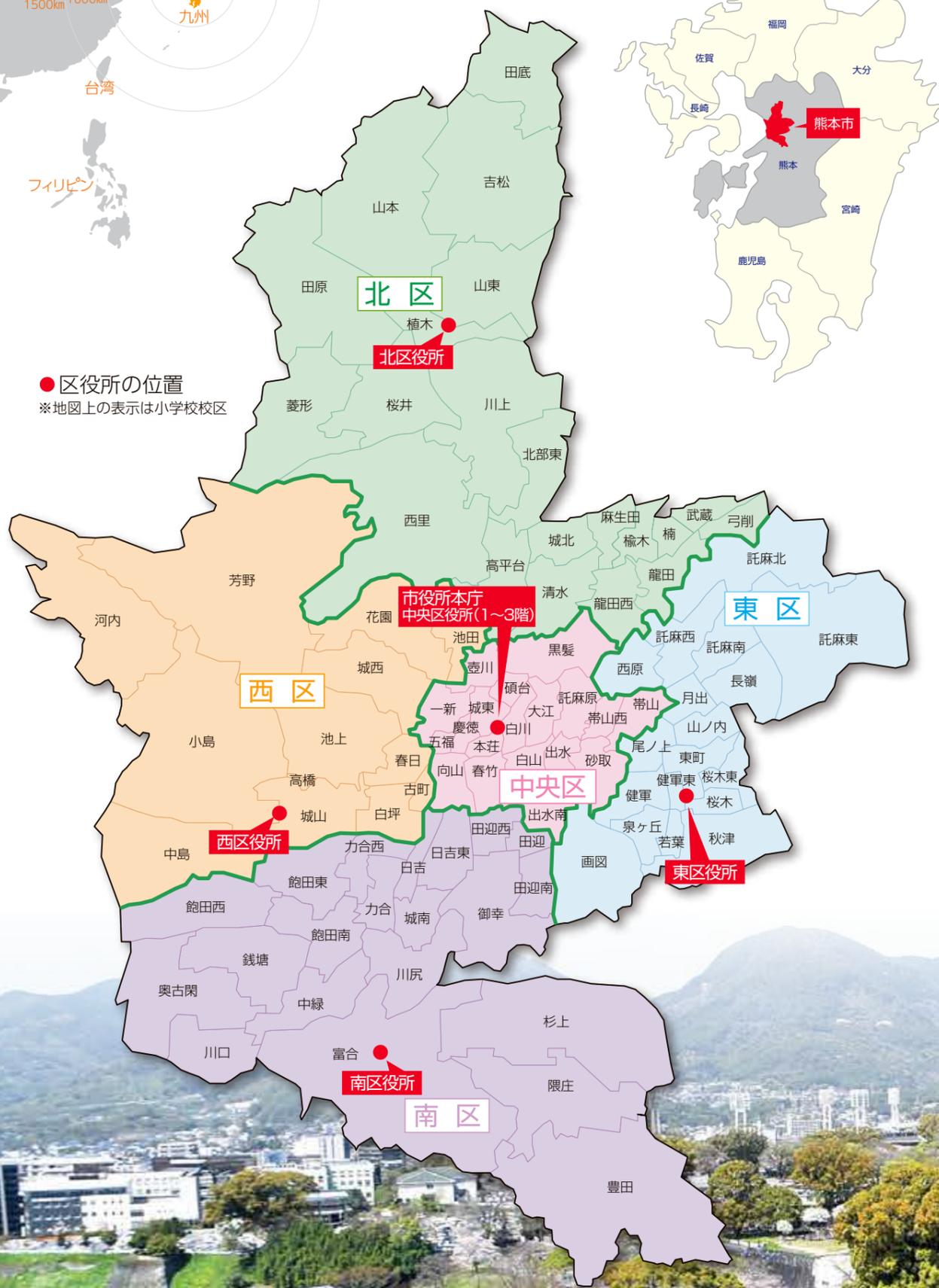
この条例では、自治の基本理念、市民・市議会・行政の役割及び自治を推進するための基本的な事項を規定しています。熊本市は、この条例に基づいて「自分たちのまちは自分たちで創る」という考え方を基本に置いた、情報共有、参画、協働によるまちづくりを進めています。

## CONTENTS【目次】

|         |     |    |        |     |
|---------|-----|----|--------|-----|
| 発刊にあたって | 西 区 | 10 | 機構図    | 16  |
| 市の概要    | 南 区 | 11 | 資料     | 18  |
| 第7次総合計画 | 北 区 | 12 | 名誉市民   | 41  |
| 中央区     | 市 政 | 13 | 市のシンボル | 裏表紙 |
| 東 区     | 市議会 | 14 |        |     |



# 熊本市の概要



## ■地域 [位置・面積]

経度:東経130°42'29" 緯度:北緯32°48'12"  
 地点:中央区手取本町1番1号  
 総面積:390.32平方キロメートル  
※世界測地系 資料:国土地理院、市総務課

本市は九州の中央、熊本県の西北部、東経130度42分・北緯32度48分の位置にあります。

地勢は、金峰山を主峰とする複式火山帯と、これに連なる立田山等の台地からなり、東部は阿蘇外輪火山群によってできた丘陵地帯、南部は白川の三角州で形成された低平野からなっています。

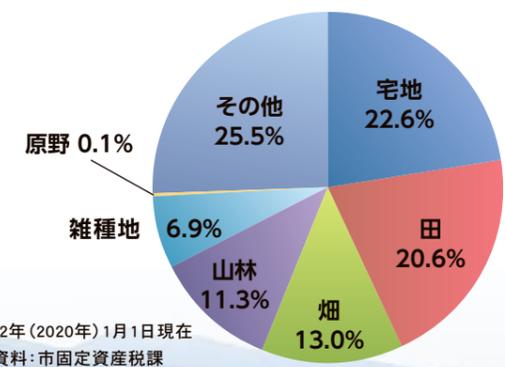
気候は、有明海との間に金峰山系が連なるため、内陸盆地的気象条件となり、寒暖の較差が大きく冬から春への移り変わりは早く、夏は比較的長いことが多いようです。

## ■令和3年(2021年)推計人口に基づく行政区の人口等

| 行政区 | 面積(km <sup>2</sup> ) | 人口(人)   | 男(人)    | 女(人)    | 世帯数(世帯) |
|-----|----------------------|---------|---------|---------|---------|
| 中央区 | 25.45                | 185,864 | 87,513  | 98,351  | 99,559  |
| 東区  | 50.19                | 189,796 | 89,986  | 99,810  | 82,389  |
| 西区  | 89.33                | 90,779  | 42,480  | 48,299  | 40,363  |
| 南区  | 110.01               | 131,522 | 61,928  | 69,594  | 51,990  |
| 北区  | 115.34               | 139,529 | 66,126  | 73,403  | 57,883  |
| 合計  | 390.32               | 737,490 | 348,033 | 389,457 | 332,184 |

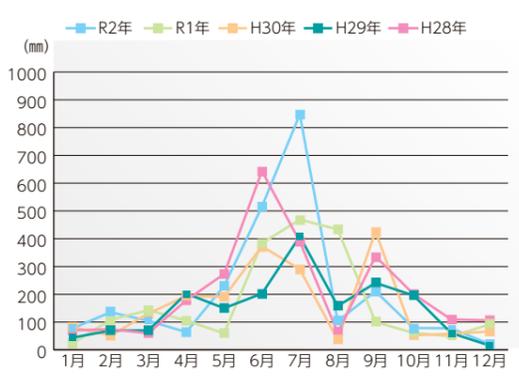
(R3.4.1現在推計人口) (面積:R3.4.1国土地理院公表値)  
 ※推計人口とは、国勢調査確定値を基に毎月の転入・転出及び出生・死亡を増減したものです。

## ■地目別土地面積の割合

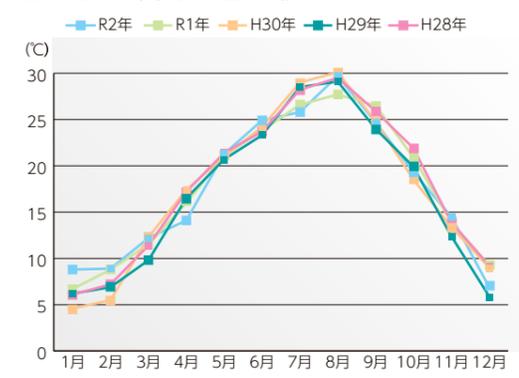


令和2年(2020年)1月1日現在  
 資料:市固定資産税課

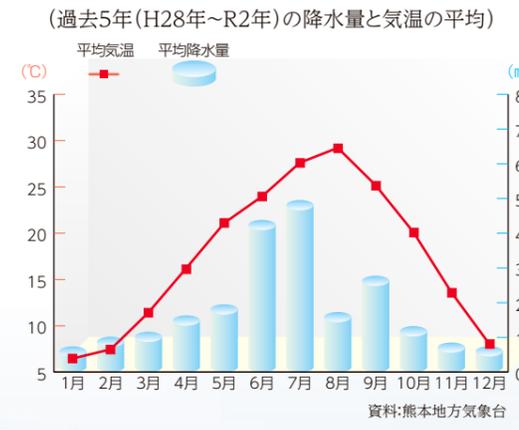
## ■過去5年間降水量比較



## ■過去5年間気温比較



## ■気温と降水量



# 第7次総合計画

## 熊本地震からの復旧復興

めざすまちの姿を実現するため、市民力・地域力・行政力を結集し、熊本地震からの復旧復興に最優先に取り組みます。

### めざすまちの姿 上質な生活都市



豊かな自然と歴史・文化に恵まれ、あたたかいふれあいに満ちた地域の中で、お互いに支え合いながら心豊かで幸せな暮らしが営まれ、災害に強くだれもが安心して暮らせるまち。そして、市民一人ひとりが、自分たちが暮らすまちに誇りを持ち、夢や希望を抱いて、いきいきと多様な生活を楽しんでいるまち。

そのような、

**市民が住み続けたい、だれもが住んでみたくなる、訪れたくなるまち、「上質な生活都市」**

を、私たちはめざします。

### まちづくりの基本理念

まちづくりの原点は「地域」、そして、そこに暮らす私たち「市民」です。

本市は、歴史や自然に恵まれ、古くから九州の中核をなす拠点都市として発展し、豊かな自然環境と都市の利便性が調和した、大変暮らしやすい都市です。

この伝統あるまちを先人たちから受け継いだ私たちは、まちの魅力をさらに磨き上げ、次の世代へ引き継いでいかなければなりません。

特に、「心の豊かさ」を重視する今の時代においては、家族や地域とのつながりと生活の満足度は深く関わりあっており、熊本地震では、人と人との絆や助け合いといった地域コミュニティの重要性が再認識されました。そこで、外国人を含めた多様な市民が豊かな暮らしを送るためには、生活の基盤となる地域が主体となってまちづくりを進め、

安心して暮らせる住みやすいまちを築くことが必要です。

そのために、市民は、今まで以上に地域に目を向け、自ら主体的に地域の中でつながり、お互いに支え合い、地域が有する資源や特色をいかした自主自立のまちづくりに、楽しみながら取り組みます。

そして、行政は、積極的に市民の中に飛び込み、地域の課題や市民の意見、要望などを的確に把握し、市民とともに解決を図っていきます。

このように、まちづくりの主役である私たち市民と行政が、お互いに責任や役割を分担し、補い合いながら、自信と誇りを持って次の世代に引き継げるようなまちづくりに取り組んでいくことが大切です。

## 1 被災者の生活再建に向けたトータルケア

### 切れ目のない生活再建・健康支援

- 恒久住宅の確保に向けた支援
- 再建後の孤立や健康悪化を防止するための見守りやコミュニティ形成支援 など

### 宅地復旧及び耐震化支援

- 液状化などの被災宅地への復旧支援
- 被災分譲マンションの建替・解体支援 など

### 心のケア

- 心の健康の確保に向けた一人ひとりの状況に合わせた支援
- カウンセリングが必要な児童生徒へのケア など

## 2 防災・減災のまちづくり

### 災害に強い都市基盤の形成

- 道路・橋梁・公共施設などインフラの耐震化
- 公共交通ネットワークの構築と移動手段の多重化 など

### 市民・地域・行政の災害対応力の強化

- 校区防災連絡会・避難所運営委員会の設立・運営支援
- 震災対処実動訓練の推進 など

### 避難環境の強化

- 福祉避難所の拡充
- 災害用マンホールトイレの設置 など

## 3 熊本地震の記録と記憶の伝承

### 防災教育の推進

- 小中学校における防災教育副読本の活用などによる発達段階に応じた防災教育の充実
- 大規模地震を想定した避難訓練の実施 など

### 震災に関する記録の保存と活用

- 震災記録誌や復興手記集の活用
- 震災関連文書の保存 など

### 国内外への発信

- 国際会議や研修会での教訓や知見の発信
- 被災地への災害支援 など

# まちづくりの重点的取組

めざまちの姿を実現するための目標を市民と行政で共有し、市民とともに次の項目に優先的に取り組みます。

## 1 安心して暮らせるまちづくり

### ① だれもが安心して子育てできる環境を整えます。

#### 安心して子育てができる少子化対策の推進

- 保育所入所待機児童ゼロの取組
- 病児・病後児保育など多様なニーズに対応した保育サービスの提供
- 子育てにかかる経済的負担の軽減や子育て不安の解消
- 仕事と子育ての両立支援や障がい児支援、児童虐待防止体制の強化 など

#### 子どもたちがいきいきと育つ環境整備

- ICTの導入による学習に集中できる環境整備や学力の向上対策
- いじめや不登校など子どもや保護者の悩みに寄り添うことができる体制づくり
- 子どもの貧困対策や生涯学習の充実
- 放課後児童対策の強化 など

### ② 「おたがいさま」で支え合う地域コミュニティを形成します。

#### 多様な世代が生きがいをもって豊かに暮らせる自主自立のまちづくり

- 地域団体との連携強化や支援の充実
- 地域団体の後継者育成などのまちづくり支援機能の強化
- 市民公益活動の推進 など

#### 健康で暮らしやすい生活都市づくり

- 子どもから高齢者まで住み慣れた地域で生活できる地域包括ケアシステムの深化・推進
- 校区単位の健康まちづくりなど生涯を通じた健康づくり
- 住民同士で支え合う地域福祉活動 など

## 2 ずっと住みたいまちづくり

### ① だれもが移動しやすく暮らしやすい都市をつくりまします。

#### 地域拠点に都市機能が集積した都市づくり

- 中心市街地と地域拠点での商業・医療など暮らしに必要な機能の維持・確保
- 利便性の高い公共交通沿線での人口密度の維持
- 歩いて楽しめる都市空間の創出 など

#### 交通利便性が高い都市づくり

- 日常生活を支えるバス路線網の再編・運行体制の見直し
- 公共交通空白・不便地域へのコミュニティ交通の導入・維持
- 公共交通と自動車交通の最適な組み合わせと幹線道路網の整備による交通渋滞対策 など

### ② 雇用機会を創出し、熊本に住み、働ける環境を整備します。

#### 地域経済の振興

- 中小・小規模事業者の事業承継への支援
- 農水産業の振興
- 経営支援、商店街の魅力向上やにぎわいの創出 など

#### 安定した雇用の創出

- 就職・就業支援や職業訓練などによる新たな技術革新に対応できる産業人材の育成・還流
- 創業支援や企業誘致の推進などによる雇用の創出
- 農水産業における担い手の育成 など

## 3 訪れてみたいまちづくり

### ① 伝統文化とエンターテインメントが共鳴するにぎわいを生み出します。

#### 歴史や伝統文化の継承・発展と観光の振興など熊本の魅力の創造・発信

- 熊本城の着実な復旧と公開
- 熊本城などの観光資源の魅力の向上と発信
- データ分析に基づく観光戦略 など

#### 国内外から多くの人が集う交流とにぎわいづくり

- 熊本の特性をいかしたMICEやスポーツ大会などの誘致
- 国内外との交流促進
- 多文化共生のまちづくり など

### ② 人と自然が共生する恵み豊かで持続可能なまち熊本を発信します。

#### 世界が認めた地下水の保全と緑あふれるまちづくり

- 恵まれた地下水の質と量の保全
- 市域に残る自然環境の保全や新たな緑の創出
- プラスチック対策の推進 など

#### 安全で良質な農水産物の魅力発信

- ICTやAI技術を活用したスマート農業の推進
- 安全・安心で良質な熊本の農水産物の発信
- 高付加価値化・ブランド化による国内外への販路拡大 など

# 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、市民の命と暮らしを守るため、感染拡大防止と地域経済の再建に最優先で取り組みます。

## 熊本市経済再建・市民生活安心プラン

### 施策1 感染拡大を防止する

- (1) 感染拡大防止対策
- (2) 医療提供体制の整備



### 施策2 市民生活を守る

- (1) 正しい知識の普及啓発と人権擁護
- (2) 市民生活・健康の維持
- (3) 子どもたちの学びと心のサポート



### 施策3 地域経済を再建する

- (1) 中小企業・小規模企業等の事業継続
- (2) 雇用の維持と人材育成
- (3) 域内需要の循環
- (4) 域外需要の取り込み
- (5) 「新しい生活様式」に対応した農水産業の振興
- (6) 企業誘致と移住促進



### 施策4 強靱な社会経済基盤を構築する

- (1) 行政のデジタル化
- (2) スマートシティの実現
- (3) 持続可能なまちへの転換





# 中央区

中央区役所  
〒860-8618 中央区手取本町1番1号  
☎096-328-2555(代表)

(R3.4.1現在推計人口)

人口 185,864人

世帯 99,559世帯

面積 25.45 km<sup>2</sup> (R3.4.1国土地理院公表値)



人口密度が最も高く都市機能集積が進んでいる市中央部のエリアで、区の中央には県内一の中心商店街が広がる一方、周辺地域には城下町風情も残っており、新旧の調和が保たれています。行政機関や企業の本店も多く、交通網の拠点として熊本桜町バスターミナルからは放射線状にバス網が張り巡らされています。

また、区内を白川と坪井川が縦断し、中心部の熊本城一帯や北部の立田山の豊かな緑、南東部の水前寺成趣園や江津湖等の湧水など自然にも恵まれています。

# 東区

東区役所  
〒862-8555 東区東本町16番30号  
☎096-367-9111(代表)

(R3.4.1現在推計人口)

人口 189,796人

世帯 82,389世帯

面積 50.19km<sup>2</sup> (R3.4.1国土地理院公表値)



東区は、熊本市の東部に位置し、5つの区の中ではもっとも人口の多い地域です。区域内には国道57号(通称東バイパス)や主要地方道熊本益城大津線(通称第二空港線)、一般県道熊本空港線(通称国体道路)等の主要幹線が走り、商業施設や医療機関、学校や福祉施設等も多く、都会の姿を見せる一方で、北には託麻三山、南には江津湖の自然が広がり、都市の利便性と自然とが調和した住環境に優れた地域です。



- 1 水前寺成趣園
- 2 城彩苑
- 3 サクラマチクマモト
- 4 泰勝寺跡



- 1 江津湖
- 2 横井小楠記念館・四時軒
- 3 健軍商店街
- 4 乳牛



# 西区

西区役所  
〒861-5292 西区小島2丁目7番1号  
☎096-329-1111(代表)

(R3.4.1現在推計人口)

- 人口 90,779人
- 世帯 40,363世帯
- 面積 89.33 km<sup>2</sup> (R3.4.1国土地理院公表値)



西区は、熊本市の西側に位置し、河内みかんなどの果樹栽培の盛んな金峰山、ノリやアサリ、ハマグリなどの養殖も盛んな有明海など豊かな自然に恵まれたところです。加えて、陸の玄関である熊本駅、海の玄関である熊本港も擁しており、人や物の交流拠点として重要な役割を担っています。

また、国指定史跡である「池辺寺跡」や「千金甲古墳」のほか、宮本武蔵が五輪書を執筆した霊巖洞、加藤清正の菩提寺である本妙寺など名所、旧跡も数多く存在し、西区は「自然」「食」「賑わい」「歴史」に恵まれた地域となっています。

# 南区

南区役所  
〒861-4189 南区富合町清藤405番地3  
☎096-357-4111(代表)

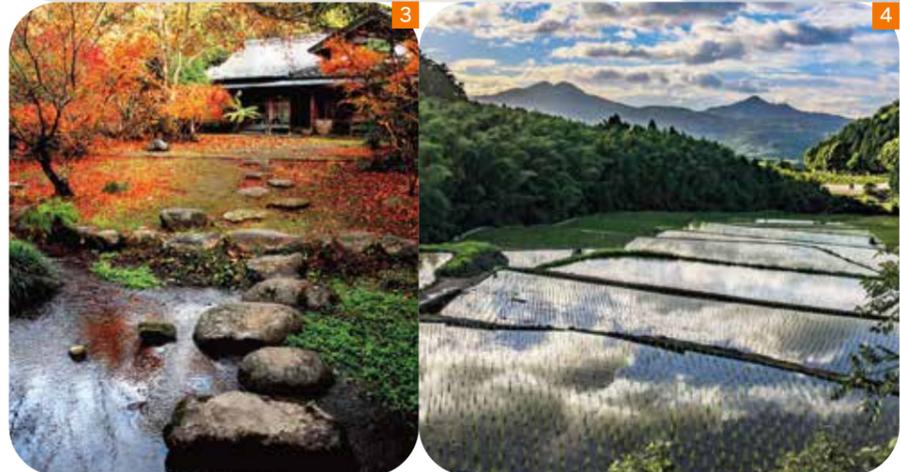
(R3.4.1現在推計人口)

- 人口 131,522人
- 世帯 51,990世帯
- 面積 110.01 km<sup>2</sup> (R3.4.1国土地理院公表値)



南区は、加勢川、緑川など一級河川が有明海に注ぎ、雁回公園や塚原古墳公園などの拠点的な公園緑地を有する、自然豊かな地域であり、区域の半分を占める農地では、ナスやトマト、メロン、きゅうり、花きなどの栽培が盛んに行われています。

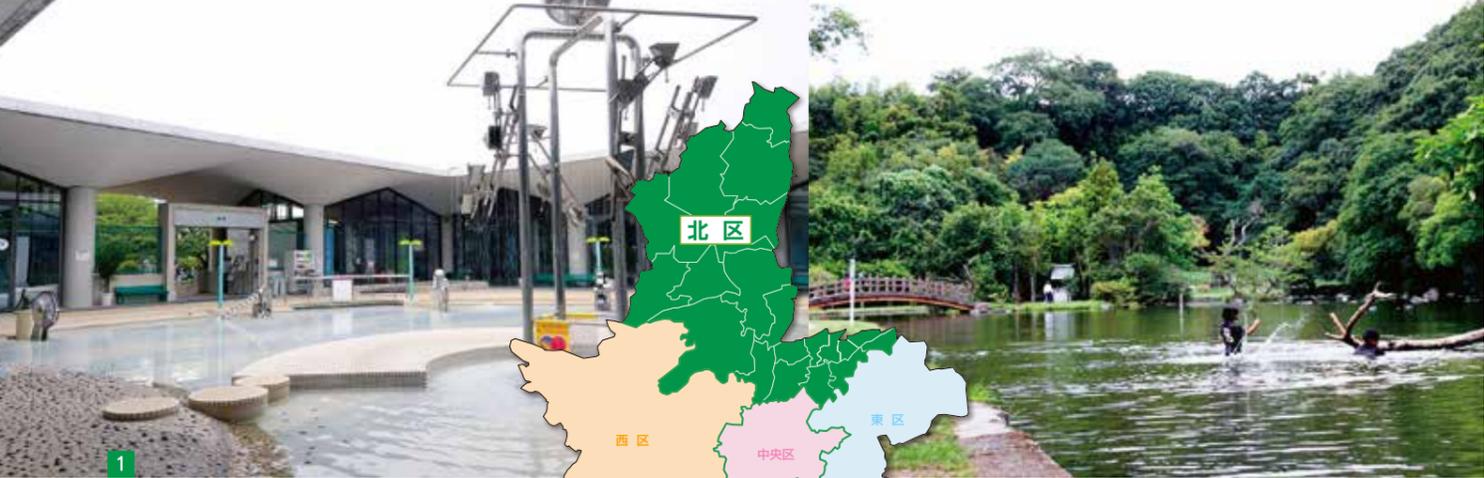
一方で、城南工業団地、県内の流通の拠点である流通業務団地、新幹線熊本総合車両所などがあり、熊本の製造業、運輸業の中核を支える地域でもあります。



- 1 熊本駅
- 2 熊本港
- 3 釣耕園
- 4 大将陣棚田



- 1 熊本総合車両所
- 2 くまもと工芸会館
- 3 川尻の船着場(熊本藩川尻米蔵跡)
- 4 中無田閘門
- 5 塚原古墳公園
- 6 アクアドーム



1

# 北区

北区役所  
〒861-0195 北区植木町岩野238番地1  
☎096-272-1111 (代表)

(R3.4.1現在推計人口)

人口 139,529人

世帯 57,883世帯

面積 115.34km<sup>2</sup> (R3.4.1国土地理院公表値)



北区は熊本市の北部に位置し、五つの区の中でもっとも面積が大きい区です。

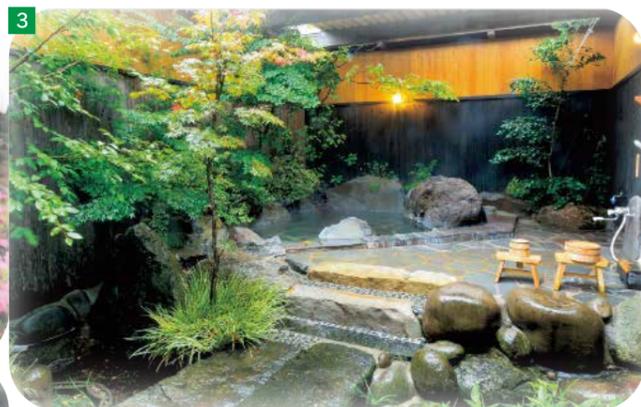
区域内を国道3号が走り、豊かな農産物に恵まれ、田原坂、武蔵塚等の史跡、また、本市の上水道発祥の地である八景水谷水源や立田山等歴史・文化そして自然も豊かです。

また植木温泉や宮原温泉、菊南温泉、梶尾温泉など癒しを得られる場所に富み、「食」「歴史」「自然」「温泉地」に恵まれた暮らしやすい地域です。

## 市政

### 歴代市長

| 代     | 氏名    | 就任年月日        | 退任年月日        |
|-------|-------|--------------|--------------|
| 第1代   | 杉村大八  | 明治 22. 5. 6  | 明治 26. 7. 9  |
| 2     | 松崎為己  | 〃 26. 9. 15  | 〃 30. 8. 2   |
| 3     | 辛島格   | 〃 30. 9. 13  | 大正 2. 1. 20  |
| 4     | 山田珠一  | 大正 2. 4. 2   | 〃 3. 10. 10  |
| 5     | 依田昌兮  | 〃 4. 1. 14   | 〃 6. 9. 3    |
| 6     | 佐柳藤太  | 〃 6. 11. 20  | 〃 10. 11. 19 |
| 7     | 高橋守雄  | 〃 11. 1. 19  | 〃 14. 7. 13  |
| 8     | 辛島知己  | 〃 14. 9. 14  | 昭和 4. 7. 4   |
| 9     | 山田珠一  | 昭和 5. 2. 5   | 〃 9. 4. 17   |
| 10    | 山隈康   | 〃 9. 5. 14   | 〃 17. 5. 13  |
| 11    | 平野龍起  | 〃 17. 6. 25  | 〃 20. 8. 10  |
| 12    | 石坂繁   | 〃 20. 10. 4  | 〃 21. 3. 11  |
| 13・14 | 福田虎亀  | 〃 21. 6. 14  | 〃 23. 2. 9   |
| 15    | 佐藤真佐男 | 〃 23. 4. 7   | 〃 27. 3. 7   |
| 16    | 林田正治  | 〃 27. 3. 20  | 〃 31. 2. 23  |
| 17・18 | 坂口主税  | 〃 31. 3. 16  | 〃 38. 1. 4   |
| 19・20 | 石坂繁   | 〃 38. 2. 15  | 〃 45. 11. 26 |
| 21~24 | 星子敏雄  | 〃 45. 12. 20 | 〃 61. 12. 6  |
| 25・26 | 田尻靖幹  | 〃 61. 12. 7  | 平成 6. 12. 6  |
| 27・28 | 三角保之  | 平成 6. 12. 7  | 〃 14. 12. 2  |
| 29~31 | 幸山政史  | 〃 14. 12. 3  | 〃 26. 12. 2  |
| 32・33 | 大西一史  | 〃 26. 12. 3  | 在任中          |



1 水の科学館(左)八景水谷公園(右)  
2 田原坂資料館  
3 植木温泉  
4 フード/パル熊本  
5 武蔵塚公園



# 市議会



議長  
原口亮志



副議長  
園川良二

市議会は、市民から選ばれた議員48名(中央区11名、東区13名、西区6名、南区8名、北区10名)で構成されています。会派としては、熊本自由民主党市議団(15名)、自由民主党熊本市議団(12名)、公明党熊本市議団(8名)、市民連合(8名)、日本共産党熊本市議団(2名)の5会派が結成されており、そのほか無所属議員(3名)となっています。

会議は年4回開かれる定例会と必要がある場合に開かれる臨時会があります。内部の審査機関としては、常任委員会と議会運営委員会及び特別委員会があります。常任委員会は予算・決算議案及び関連議案を審査する予算決算委員会のほか、総務・教育市民・厚生・環境水道・経済・都市整備の計7委員会があり、議案などの審査及び所管部門の事務の調査を行います。議会運営委員会は議会の運営に関する調査を行います。特別委員会は必要に応じて議会の議決により設置され、現在、庁舎整備に関する特別委員会、大都市税財政制度・都市問題等特別委員会の2委員会があります。

## 歴代市議会議員

| 代  | 氏名    | 就任年月日         | 退任年月日         |
|----|-------|---------------|---------------|
| 1  | 有馬源内  | 明治 22. 4. 26  | 明治 24. 1. 21  |
| 2  | 興津景章  | 明治 24. 1. 22  | 明治 28. 5. 13  |
| 3  | 河原惟親  | 明治 28. 5. 14  | 明治 31. 5. 22  |
| 4  | 吉永為己  | 明治 31. 5. 23  | 明治 36. 2. 5   |
| 5  | 山田珠己  | 明治 36. 2. 6   | 明治 37. 4. 30  |
| 6  | 吉永為己  | 明治 37. 5. 27  | 大正 2. 4. 30   |
| 7  | 林千八   | 大正 2. 5. 10   | 明治 6. 4. 30   |
| 8  | 山隈康郎  | 明治 6. 5. 15   | 明治 10. 9. 30  |
| 9  | 迫源次郎  | 明治 10. 10. 14 | 明治 14. 9. 30  |
| 10 | 山隈康郎  | 明治 14. 10. 12 | 昭和 9. 5. 7    |
| 11 | 平野龍起  | 昭和 9. 5. 8    | 昭和 17. 6. 14  |
| 12 | 佐藤真佐男 | 昭和 17. 7. 23  | 昭和 22. 4. 29  |
| 13 | 佐藤真佐男 | 昭和 22. 6. 9   | 昭和 23. 4. 7   |
| 14 | 大塚勇次郎 | 昭和 23. 6. 5   | 昭和 26. 4. 29  |
| 15 | 大塚勇次郎 | 昭和 26. 5. 15  | 昭和 30. 4. 30  |
| 16 | 兼坂安次  | 昭和 30. 5. 21  | 昭和 34. 4. 8   |
| 17 | 打出信行  | 昭和 34. 6. 12  | 昭和 36. 3. 24  |
| 18 | 寸坂幸夫  | 昭和 36. 3. 24  | 昭和 38. 4. 30  |
| 19 | 阿部次郎  | 昭和 38. 5. 18  | 昭和 40. 3. 18  |
| 20 | 井上常八  | 昭和 40. 3. 18  | 昭和 40. 12. 7  |
| 21 | 石井辰雄  | 昭和 41. 7. 4   | 昭和 42. 4. 30  |
| 22 | 阿部次郎  | 昭和 42. 5. 20  | 昭和 43. 7. 3   |
| 23 | 坂梨日露  | 昭和 43. 7. 13  | 昭和 45. 12. 4  |
| 24 | 黒田弥一  | 昭和 45. 12. 4  | 昭和 46. 4. 30  |
| 25 | 落水清雄  | 昭和 46. 5. 20  | 昭和 48. 6. 6   |
| 26 | 古川国雄  | 昭和 48. 6. 6   | 昭和 50. 4. 30  |
| 27 | 紫垣正良  | 昭和 50. 5. 16  | 昭和 52. 6. 4   |
| 28 | 上田堅太  | 昭和 52. 6. 4   | 昭和 54. 4. 30  |
| 29 | 島永慶孝  | 昭和 54. 5. 14  | 昭和 56. 12. 8  |
| 30 | 藤山増美  | 昭和 56. 12. 8  | 昭和 58. 4. 30  |
| 31 | 宮原光男  | 昭和 58. 5. 18  | 昭和 60. 9. 6   |
| 32 | 大石文夫  | 昭和 60. 9. 6   | 昭和 61. 12. 15 |
| 33 | 内田幸吉  | 昭和 61. 12. 15 | 昭和 62. 4. 3   |
| 34 | 西村建治  | 昭和 62. 5. 22  | 昭和 63. 12. 16 |
| 35 | 村上春生  | 昭和 63. 12. 16 | 平成 2. 3. 26   |
| 36 | 矢野昭三  | 平成 2. 3. 26   | 平成 3. 4. 30   |
| 37 | 嶋田幾雄  | 平成 3. 5. 17   | 平成 5. 12. 3   |
| 38 | 中村徳生  | 平成 5. 12. 3   | 平成 7. 4. 30   |
| 39 | 荒木哲美  | 平成 7. 5. 19   | 平成 9. 3. 27   |
| 40 | 主海偉佐  | 平成 9. 3. 27   | 平成 11. 4. 30  |
| 41 | 江藤正行  | 平成 11. 5. 21  | 平成 13. 6. 8   |
| 42 | 白石正一  | 平成 13. 6. 8   | 平成 14. 6. 18  |
| 43 | 宮原政一  | 平成 14. 6. 18  | 平成 15. 4. 30  |
| 44 | 落水清弘  | 平成 15. 5. 23  | 平成 16. 9. 7   |
| 45 | 古川泰三  | 平成 16. 9. 7   | 平成 17. 12. 20 |
| 46 | 税所熙照  | 平成 17. 12. 20 | 平成 19. 4. 30  |
| 47 | 牛嶋孝弘  | 平成 19. 5. 24  | 平成 20. 12. 22 |
| 48 | 竹原孝昭  | 平成 20. 12. 22 | 平成 22. 3. 2   |
| 49 | 坂田誠二  | 平成 22. 3. 2   | 平成 23. 4. 30  |
| 50 | 津田征士郎 | 平成 23. 5. 23  | 平成 25. 3. 26  |
| 51 | 齊藤聡郎  | 平成 25. 3. 26  | 平成 26. 3. 24  |
| 52 | 三島良之  | 平成 26. 3. 24  | 平成 27. 4. 30  |
| 53 | 満永寿博  | 平成 27. 5. 13  | 平成 28. 3. 24  |
| 54 | 澤田昌作  | 平成 28. 3. 24  | 平成 30. 3. 26  |
| 55 | くつき信哉 | 平成 30. 3. 26  | 平成 31. 4. 30  |
| 56 | 倉重徹仁  | 令和 1. 5. 15   | 令和 2. 6. 9    |
| 57 | 紫垣正亮  | 令和 2. 6. 9    | 令和 3. 6. 7    |
| 58 | 原口亮志  | 令和 3. 6. 7    | 在任中           |

## 歴代市議会副議長

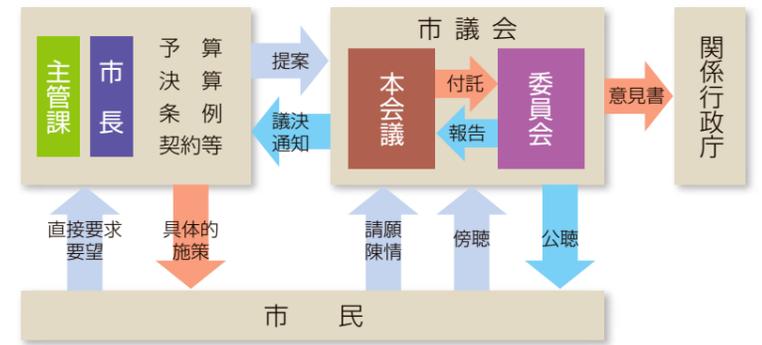
| 代  | 氏名    | 就任年月日         | 退任年月日         |
|----|-------|---------------|---------------|
| 1  | 下田直一  | 明治 22. 4. 26  | 明治 24. 1. 21  |
| 2  | 下田耕造  | 明治 24. 1. 22  | 明治 31. 5. 22  |
| 3  | 片山基十  | 明治 31. 5. 23  | 明治 32. 2. 7   |
| 4  | 林定男   | 明治 32. 2. 8   | 明治 36. 2. 5   |
| 5  | 出田彦太郎 | 明治 36. 2. 6   | 明治 36. 2. 11  |
| 6  | 園部交雅  | 明治 36. 2. 12  | 明治 36. 5. 11  |
| 7  | 板垣正軌  | 明治 36. 5. 12  | 明治 37. 2. 12  |
| 8  | 有働格四郎 | 明治 37. 2. 13  | 明治 40. 11. 4  |
| 9  | 板垣正軌  | 明治 40. 11. 14 | 明治 42. 1. 27  |
| 10 | 河田巖   | 明治 42. 1. 28  | 大正 2. 4. 30   |
| 11 | 井場喜喜  | 大正 2. 5. 10   | 明治 6. 4. 30   |
| 12 | 峽謙    | 大正 6. 5. 15   | 明治 7. 3. 10   |
| 13 | 藤野乱   | 大正 7. 3. 11   | 明治 10. 9. 30  |
| 14 | 水上誠規  | 大正 10. 10. 14 | 明治 14. 9. 30  |
| 15 | 河田巖   | 大正 14. 10. 12 | 昭和 4. 9. 30   |
| 16 | 平野龍起  | 昭和 4. 10. 12  | 昭和 9. 5. 7    |
| 17 | 橋本寿七  | 昭和 9. 5. 8    | 昭和 17. 5. 20  |
| 18 | 西郷一恵  | 昭和 17. 6. 11  | 昭和 22. 4. 29  |
| 19 | 大塚勇次郎 | 昭和 22. 6. 9   | 昭和 23. 6. 5   |
| 20 | 加川恒次  | 昭和 23. 6. 5   | 昭和 26. 4. 29  |
| 21 | 北野利民  | 昭和 26. 5. 15  | 昭和 28. 9. 5   |
| 22 | 上野勉   | 昭和 28. 9. 25  | 昭和 30. 4. 30  |
| 23 | 森光吉   | 昭和 30. 5. 21  | 昭和 32. 12. 28 |
| 24 | 吉村貞次  | 昭和 34. 6. 12  | 昭和 35. 3. 21  |
| 25 | 坂梨日露  | 昭和 35. 3. 21  | 昭和 37. 7. 9   |
| 26 | 吉村貞次  | 昭和 37. 7. 9   | 昭和 38. 4. 30  |
| 27 | 石井辰雄  | 昭和 38. 5. 18  | 昭和 41. 7. 4   |
| 28 | 吉村貞次  | 昭和 41. 7. 4   | 昭和 42. 4. 30  |
| 29 | 佐藤寿子  | 昭和 42. 5. 20  | 昭和 44. 3. 24  |
| 30 | 古川国雄  | 昭和 44. 3. 25  | 昭和 44. 6. 28  |
| 31 | 岩尾恵   | 昭和 44. 9. 13  | 昭和 46. 4. 30  |
| 32 | 阪本富昇  | 昭和 46. 5. 20  | 昭和 48. 6. 6   |
| 33 | 荒木    | 昭和 48. 6. 6   | 昭和 50. 4. 30  |
| 34 | 藤山増美  | 昭和 50. 5. 16  | 昭和 52. 6. 4   |
| 35 | 矢野昭三  | 昭和 52. 6. 4   | 昭和 54. 4. 30  |
| 36 | 上妻重蔵  | 昭和 54. 5. 14  | 昭和 56. 12. 8  |
| 37 | 田尻武男  | 昭和 56. 12. 8  | 昭和 58. 4. 30  |
| 38 | 白石正義  | 昭和 58. 5. 18  | 昭和 60. 9. 6   |
| 39 | 北口政義  | 昭和 60. 9. 6   | 昭和 61. 12. 15 |
| 40 | 吉村潔   | 昭和 61. 12. 15 | 昭和 62. 4. 30  |
| 41 | 竹本勇   | 昭和 62. 5. 22  | 昭和 63. 12. 16 |
| 42 | 村上裕人  | 平成 63. 12. 16 | 平成 2. 3. 26   |
| 43 | 佐藤公平  | 平成 2. 3. 26   | 平成 3. 4. 30   |
| 44 | 西田純   | 平成 3. 5. 17   | 平成 5. 12. 3   |
| 45 | 伊形寛治  | 平成 5. 12. 3   | 平成 7. 4. 30   |
| 46 | 宮原正一  | 平成 7. 5. 19   | 平成 9. 3. 27   |
| 47 | 中沢誠   | 平成 9. 3. 27   | 平成 11. 4. 30  |
| 48 | 鈴木昌彦  | 平成 11. 5. 21  | 平成 13. 6. 8   |
| 49 | 岡田健士  | 平成 13. 6. 8   | 平成 14. 6. 18  |
| 50 | 奥田光弘  | 平成 14. 6. 18  | 平成 15. 4. 30  |
| 51 | 竹原孝昭  | 平成 15. 5. 23  | 平成 16. 9. 7   |
| 52 | 家入安弘  | 平成 16. 9. 7   | 平成 17. 12. 20 |
| 53 | 田尻清輝  | 平成 17. 12. 20 | 平成 19. 4. 30  |
| 54 | 磯道文徳  | 平成 19. 5. 24  | 平成 21. 3. 25  |
| 55 | 田中誠一  | 平成 21. 3. 25  | 平成 23. 4. 30  |
| 56 | 田尻博将  | 平成 23. 5. 23  | 平成 25. 3. 26  |
| 57 | 鈴木弘   | 平成 25. 3. 26  | 平成 27. 4. 30  |
| 58 | 藤岡照代  | 平成 27. 5. 13  | 平成 29. 3. 24  |
| 59 | 藤山英美  | 平成 29. 3. 24  | 平成 30. 3. 26  |
| 60 | 田辺正信  | 平成 30. 3. 26  | 平成 31. 4. 30  |
| 61 | 上田芳裕  | 令和 1. 5. 15   | 令和 3. 6. 7    |
| 62 | 園川良二  | 令和 3. 6. 7    | 在任中           |

## 市議会議員(令和3年8月1日現在)

| 氏名    | 会派    | 氏名     | 会派    |
|-------|-------|--------|-------|
| 原口亮志  | 熊本自民  | 浜田大介   | 公明党   |
| 園川良二  | 公明党   | 井本正広   | 公明党   |
| 山本浩之  | 熊本自民  | 藤永弘    | 公明党   |
| 北川哉   | 無所属議員 | 田中敦朗   | 熊本自民  |
| 古川智子  | 自民党   | 紫垣正仁   | 熊本自民  |
| 島津哲也  | 市民連合  | 小佐井賀瑞宜 | 自民党   |
| 吉田健一  | 公明党   | 寺本義勝   | 自民党   |
| 伊藤和仁  | 公明党   | 原亨     | 自民党   |
| 平江透   | 熊本自民  | 大石浩文   | 自民党   |
| 荒川慎太郎 | 自民党   | 村上博    | 市民連合  |
| 齊藤博   | 自民党   | 上田芳裕   | 市民連合  |
| 田島幸治  | 自民党   | 那須円    | 共産党   |
| 日隈忍   | 自民党   | 澤田昌作   | 熊本自民  |
| 吉村健治  | 市民連合  | 田尻善裕   | 熊本自民  |
| 山内勝志  | 市民連合  | 満永寿博   | 熊本自民  |
| 緒方夕佳  | 無所属議員 | 田中誠一   | 熊本自民  |
| 高瀬千鶴子 | 公明党   | 津田征士郎  | 熊本自民  |
| 三森至加  | 公明党   | 藤山英美   | 熊本自民  |
| 大嶋澄雄  | 熊本自民  | 落水清弘   | 熊本自民  |
| 光永邦保  | 熊本自民  | 倉重徹    | 自民党   |
| 高本一臣  | 熊本自民  | 三島良之   | 自民党   |
| 福永洋一  | 市民連合  | 坂田誠二   | 自民党   |
| 西岡誠也  | 市民連合  | 白河部貞志  | 無所属議員 |
| 田上辰也  | 市民連合  | 上野美恵子  | 共産党   |



## 市議会のしくみ



## 常任・特別委員会(令和3年8月1日現在)

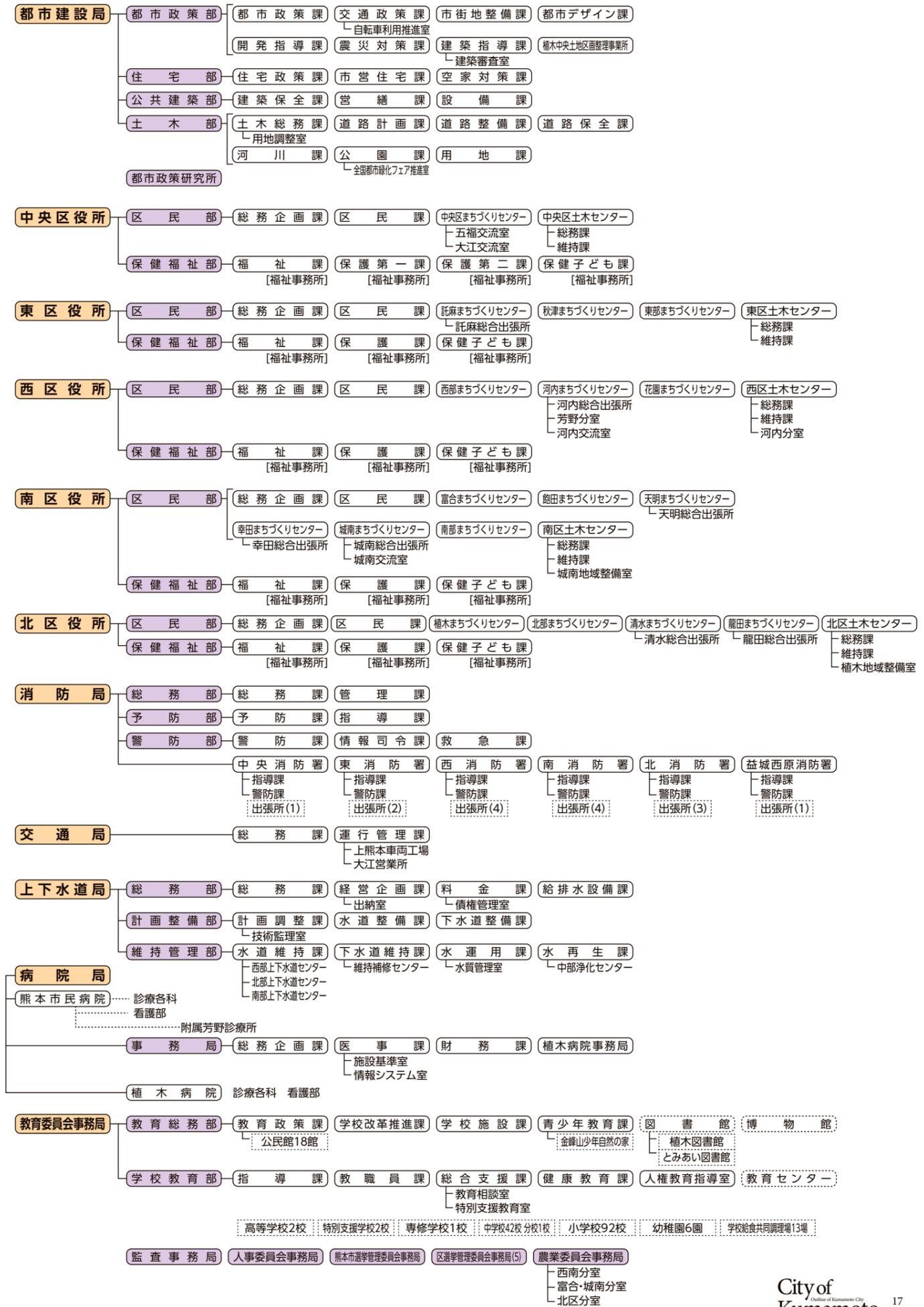
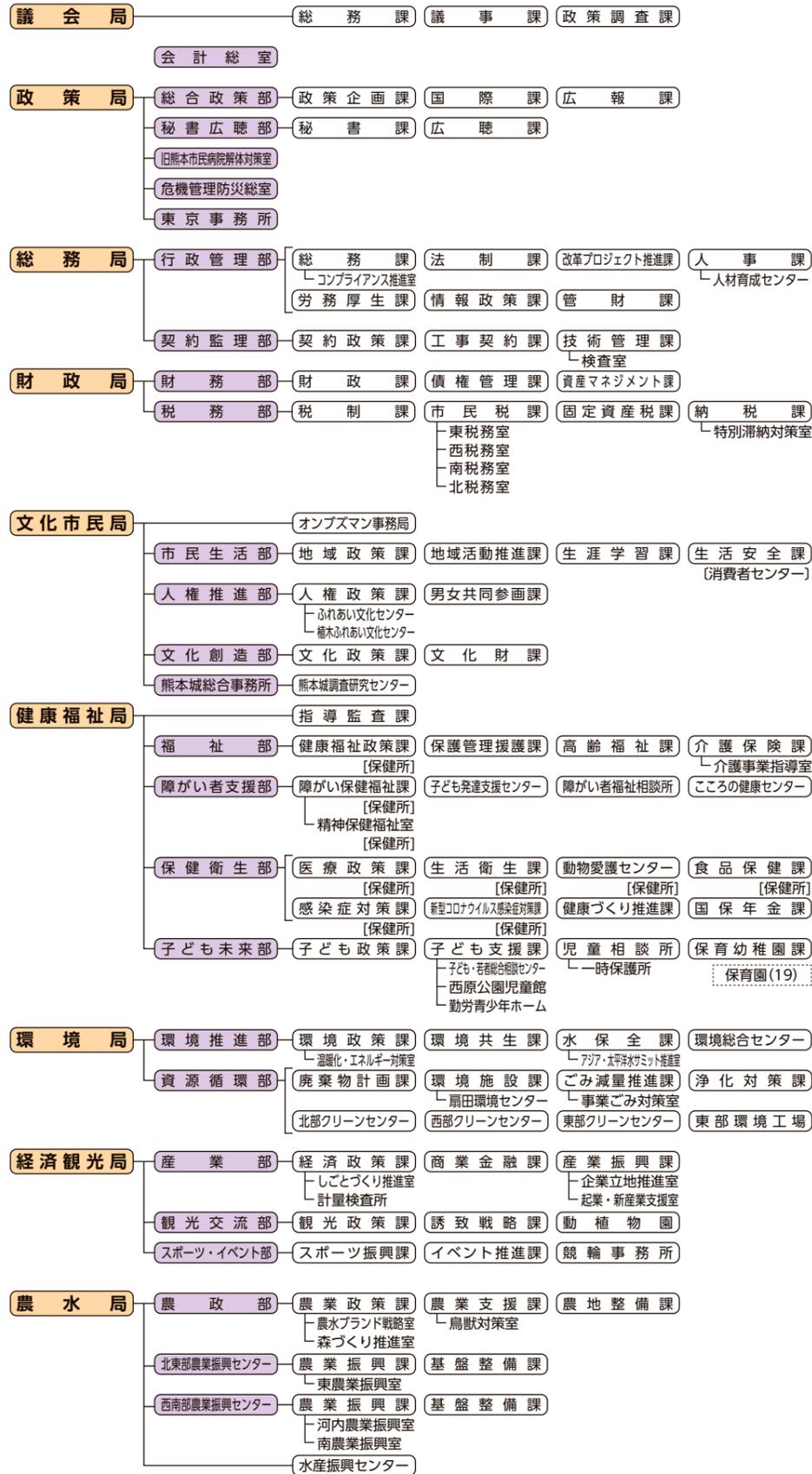
| 名称      | 定数  | 所管事項   |
|---------|-----|--|
| 常任委員会   | 48名 | 予算及びこれに関連する事項 決算及びこれに関連する事項  |
| 総務委員会   | 8名  | 政策局、総務局、財政局、都市政策研究所、会計総室、消防局、選挙管理委員会、監査委員、人事委員会、議会局の所管に属する事項、他の常任委員会の所管に属しない事項 |
| 教育市民委員会 | 8名  | 文化市民局、教育委員会の所管に属する事項   |
| 厚生委員会   | 8名  | 健康福祉局、病院局の所管に属する事項   |
| 環境水道委員会 | 8名  | 環境局、上下水道局の所管に属する事項   |
| 経済委員会   | 8名  | 経済観光局、農水局、農業委員会の所管に属する事項   |
| 都市整備委員会 | 8名  | 都市建設局、交通局の所管に属する事項   |
| 議会運営委員会 | 13名 | 議会運営に関する調査   |
| 特別委員会   | 12名 | 庁舎整備に関する特別委員会<br>本庁舎に求められる機能と在り方及びこれに係る諸問題に関する調査                               |
|         | 12名 | 大都市税財政制度・都市問題等特別委員会<br>大都市における税財政制度及び都市問題に関する調査                                |

予算決算委員会の所管に属する事項を除く

# 熊本市機構図

令和3年(2021年)5月7日現在

凡例  局相当組織  部相当組織

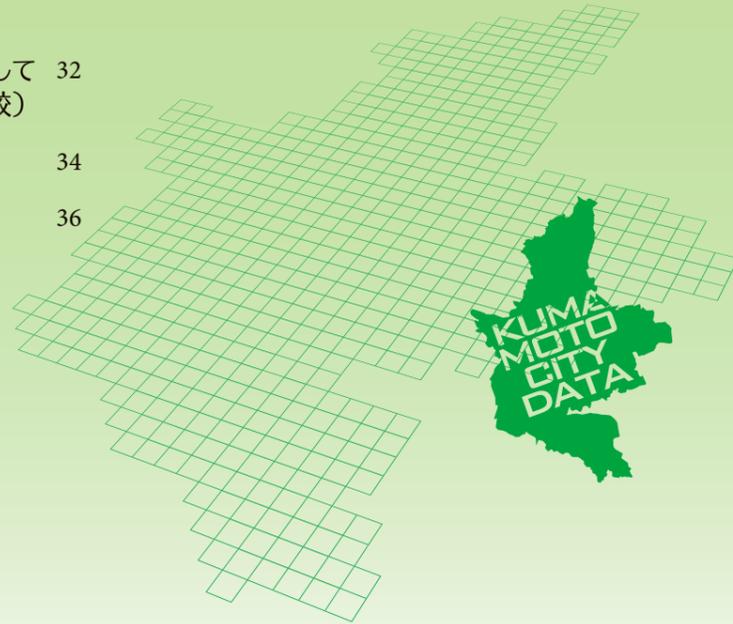


高等学校2校 特別支援学校2校 専修学校1校 中学校42校分校1校 小学校92校 幼稚園6園 学校給食共同調理場13場

# 熊本市資料

- 1 人口 18
- 2 財政 21
- 3 産業 22
- 4 保健福祉 23
- 5 生活・環境 24
- 6 安心・安全 27
- 7 教育・文化・観光 28
- 8 市民の暮らし 29
- 9 日本一住みやすいまちを目指して (政令指定都市比較) 30
- 10 日本一住みやすいまちを目指して (九州山口各県庁所在地比較) 32
- 11 主要観光地・施設等 34
- 12 熊本市のあゆみ 36

※統計資料は四捨五入等の関係により、内訳と計が一致しない場合があります。



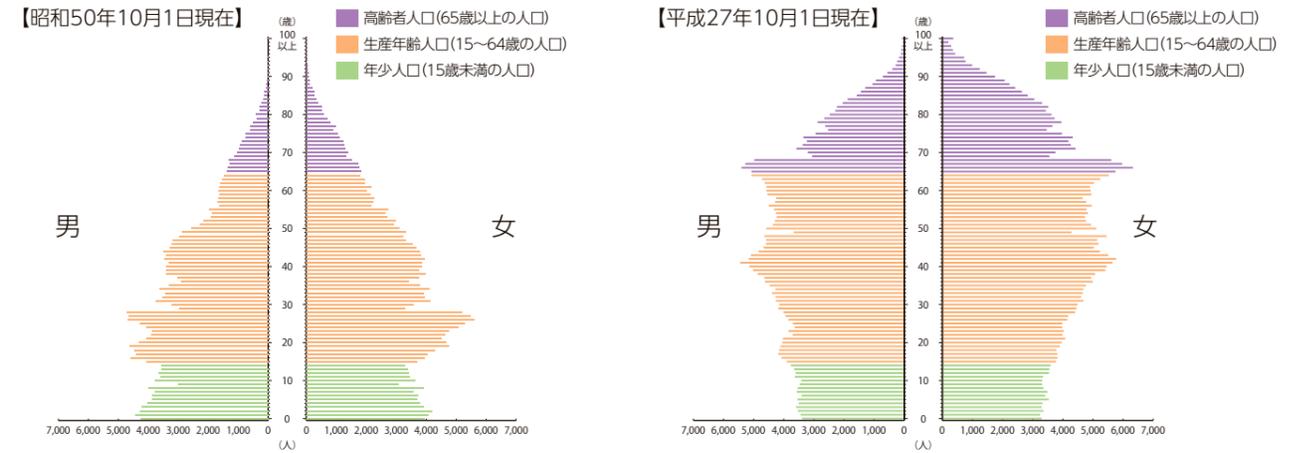
## 1 人口

### ■国勢調査人口・世帯数の推移

| 年次              |                   | 昭和60年   | 平成2年    | 平成7年    | 平成12年   | 平成17年   | 平成22年   | 平成27年   |
|-----------------|-------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 人口              | 総数                | 555,719 | 579,306 | 650,341 | 662,012 | 669,603 | 734,474 | 740,822 |
|                 | 男                 | 265,037 | 275,424 | 310,118 | 314,455 | 316,048 | 344,291 | 348,470 |
|                 | 女                 | 290,682 | 303,882 | 340,223 | 347,557 | 353,555 | 390,183 | 392,352 |
|                 | 年少人口(0~14歳)(%)    | 21.5    | 19.3    | 17.2    | 15.8    | 14.9    | 14.4    | 14.0    |
|                 | 生産年齢人口(15~64歳)(%) | 68.7    | 68.8    | 68.9    | 67.9    | 66.4    | 63.8    | 61.1    |
| 高齢者人口(65歳以上)(%) | 9.9               | 11.4    | 13.8    | 16.2    | 18.5    | 20.8    | 23.9    |         |
| 世帯              |                   | 194,486 | 211,207 | 246,700 | 260,672 | 270,530 | 302,413 | 315,456 |
| 1世帯当たり人員        |                   | 2.9     | 2.7     | 2.6     | 2.5     | 2.5     | 2.4     | 2.3     |

※平成20年10月6日に富合町と合併。平成22年3月23日に城南町及び植木町と合併。  
※年齢3区分の構成比は、総数より算出。

### ■人口ピラミッド



### ■産業別就業者及び就業割合

平成28年経済センサス-活動調査

| 行政区  | 総数<br>(産業大分類) | 第1次産業 |       | 第2次産業  |        | 第3次産業   |        | 分類不能の産業 |        |
|------|---------------|-------|-------|--------|--------|---------|--------|---------|--------|
|      |               | 就業人口  | 就業割合  | 就業人口   | 就業割合   | 就業人口    | 就業割合   | 就業人口    | 就業割合   |
| 中央区  | 112,919       | 64    | 0.06% | 6,400  | 5.67%  | 91,682  | 81.19% | 14,773  | 13.08% |
| 東区   | 60,888        | 115   | 0.19% | 9,661  | 15.87% | 47,666  | 78.28% | 3,446   | 5.66%  |
| 西区   | 26,092        | 283   | 1.08% | 3,488  | 13.37% | 20,723  | 79.42% | 1,598   | 6.12%  |
| 南区   | 48,018        | 205   | 0.43% | 9,727  | 20.26% | 35,925  | 74.82% | 2,161   | 4.50%  |
| 北区   | 40,729        | 313   | 0.77% | 10,606 | 26.04% | 25,863  | 63.50% | 3,947   | 9.69%  |
| 全市合計 | 288,646       | 980   | 0.34% | 39,882 | 13.82% | 221,859 | 76.86% | 25,925  | 8.98%  |

### ■労働力状態

平成27年国勢調査

| 行政区  | 総数<br>(労働力状態) | 労働力人口   | 就業者       |              |              |          | 完全失業者 | 非労働力人口 |         |        | 不詳     |         |        |
|------|---------------|---------|-----------|--------------|--------------|----------|-------|--------|---------|--------|--------|---------|--------|
|      |               |         | (就業者)主に仕事 | (就業者)家事のほか仕事 | (就業者)通学のほか仕事 | (就業者)休業者 |       | 家事     | 通学      | その他    |        |         |        |
| 中央区  | 160,233       | 86,826  | 82,598    | 68,572       | 9,105        | 3,279    | 1,642 | 4,228  | 57,701  | 19,568 | 13,788 | 24,345  | 15,706 |
| 東区   | 160,006       | 93,078  | 88,673    | 74,516       | 10,904       | 1,453    | 1,800 | 4,405  | 57,388  | 21,374 | 10,348 | 25,666  | 9,540  |
| 西区   | 80,969        | 45,068  | 42,993    | 35,737       | 5,405        | 872      | 979   | 2,075  | 30,866  | 9,694  | 5,728  | 15,444  | 5,035  |
| 南区   | 106,911       | 62,440  | 59,985    | 50,508       | 7,419        | 619      | 1,439 | 2,455  | 38,710  | 12,906 | 5,894  | 19,910  | 5,761  |
| 北区   | 122,028       | 69,736  | 66,612    | 56,074       | 8,292        | 834      | 1,412 | 3,124  | 46,242  | 16,230 | 7,232  | 22,780  | 6,050  |
| 全市合計 | 630,147       | 357,148 | 340,861   | 285,407      | 41,125       | 7,057    | 7,272 | 16,287 | 230,907 | 79,772 | 42,990 | 108,145 | 42,092 |

### ■夜間人口、流入・流出人口および昼間人口の推移

| 年次   | 夜間人口(国勢調査人口) |        |      | 流入人口   |       | 流出人口   |       | 昼間人口      |        |        | 夜間人口対昼間人口比 D/A×100 |
|------|--------------|--------|------|--------|-------|--------|-------|-----------|--------|--------|--------------------|
|      | 実数A          | 増減数    | 増減率  | 実数B    | 増減率   | 実数C    | 増減率   | 実数D=A+B-C | 増減数    | 増減率    |                    |
| 平成7年 | 649,638      | 22,911 | 3.7% | 74,450 | 12.4% | 31,200 | 31.5% | 692,888   | 23,681 | 3.5%   | 106.7%             |
| 12年  | 661,615      | 11,977 | 1.8% | 76,018 | 2.1%  | 35,977 | 15.3% | 701,656   | 8,768  | 1.3%   | 106.1%             |
| 17年  | 668,513      | 6,898  | 1.0% | 73,928 | △2.7% | 44,352 | 23.3% | 698,089   | △3,567 | △0.5%  | 104.4%             |
| 22年  | 734,474      | 65,961 | 9.9% | 70,620 | △4.5% | 48,001 | 8.2%  | 757,093   | 59,004 | 8.5%   | 103.1%             |
| 27年  | 740,822      | 6,348  | 0.9% | 71,762 | 1.6%  | 55,732 | 16.1% | 756,852   | △241   | △0.03% | 102.2%             |

※平成7年から平成17年までは、年齢不詳を含まない。

■年齢5歳階級別人口 (令和2年10月1日現在住民基本台帳人口)

| 年齢    | 合計      | 男       | 女       |                           |
|-------|---------|---------|---------|---------------------------|
| 100以上 | 534     | 62      | 472     | 高齢者人口<br>192,843<br>26.3% |
| 95～99 | 3,295   | 628     | 2,667   |                           |
| 90～94 | 10,577  | 2,941   | 7,636   |                           |
| 85～89 | 20,784  | 7,211   | 13,573  |                           |
| 80～84 | 27,682  | 10,862  | 16,820  |                           |
| 75～79 | 34,311  | 14,583  | 19,728  |                           |
| 70～74 | 48,211  | 22,066  | 26,145  |                           |
| 65～69 | 47,449  | 22,538  | 24,911  |                           |
| 60～64 | 45,502  | 21,832  | 23,670  |                           |
| 55～59 | 45,722  | 21,627  | 24,095  |                           |
| 50～54 | 47,176  | 22,315  | 24,861  |                           |
| 45～49 | 53,769  | 26,042  | 27,727  |                           |
| 40～44 | 49,605  | 24,245  | 25,360  |                           |
| 35～39 | 45,460  | 22,251  | 23,209  |                           |
| 30～34 | 39,984  | 19,559  | 20,425  |                           |
| 25～29 | 37,024  | 18,111  | 18,913  |                           |
| 20～24 | 37,750  | 19,096  | 18,654  |                           |
| 15～19 | 35,858  | 18,224  | 17,634  |                           |
| 10～14 | 34,983  | 17,688  | 17,295  | 年少人口                      |
| 5～9   | 34,519  | 17,807  | 16,712  | 101,850                   |
| 0～4   | 32,348  | 16,498  | 15,850  | 13.9%                     |
| 総数    | 732,543 | 346,186 | 386,357 | 100.0%                    |

高齢化社会=高齢化率7%～14%  
 高齢社会=高齢化率14%～21%  
 超高齢社会=高齢化率21%～  
 ※高齢化率とは高齢者人口が総人口に占める割合

■世帯数・人口の推移

| 年次    | 世帯数     | 人口      |         |         | 1世帯当たり人員 | 備考                     |
|-------|---------|---------|---------|---------|----------|------------------------|
|       |         | 合計      | 男       | 女       |          |                        |
| 明治22年 | 11,797  | 42,725  | ...     | ...     | 3.6      | 市制施行<br>4月1日現在         |
| 大正9年  | 13,787  | 70,388  | 36,661  | 33,727  | 5.1      | 第1回国勢調査                |
| 昭和元年  | 27,157  | 150,075 | 75,680  | 74,395  | 5.5      |                        |
| 5年    | 32,418  | 164,460 | 81,957  | 82,503  | 5.1      |                        |
| 10年   | 38,336  | 214,270 | 105,480 | 108,790 | 5.6      | 12月31日現在の<br>現住戸数-現住人口 |
| 15年   | 39,813  | 243,574 | 116,838 | 126,736 | 6.1      | 12月31日現在の<br>現住戸数-現住人口 |
| 20年   | 37,981  | 180,643 | 84,935  | 95,708  | 4.8      | 11月1日現在                |
| 25年   | 59,853  | 267,506 | 128,067 | 139,439 | 4.5      |                        |
| 30年   | 72,008  | 332,493 | 159,500 | 172,993 | 4.6      |                        |
| 35年   | 90,949  | 373,922 | 178,014 | 195,908 | 4.1      |                        |
| 40年   | 107,634 | 407,052 | 192,538 | 214,514 | 3.8      |                        |
| 45年   | 128,559 | 440,020 | 206,854 | 233,166 | 3.4      |                        |
| 50年   | 153,540 | 488,166 | 231,188 | 256,978 | 3.2      |                        |
| 55年   | 180,239 | 525,662 | 251,011 | 274,651 | 2.9      |                        |
| 60年   | 194,486 | 555,719 | 265,037 | 290,682 | 2.9      |                        |
| 平成2年  | 211,207 | 579,306 | 275,424 | 303,882 | 2.7      |                        |
| 7年    | 246,700 | 650,341 | 310,118 | 340,223 | 2.6      |                        |
| 12年   | 260,672 | 662,012 | 314,455 | 347,557 | 2.5      |                        |
| 17年   | 270,530 | 669,603 | 316,048 | 353,555 | 2.5      |                        |
| 22年   | 302,413 | 734,474 | 344,291 | 390,183 | 2.4      |                        |
| 27年   | 315,456 | 740,822 | 348,470 | 392,352 | 2.3      |                        |
| 28年   | 317,466 | 739,606 | 348,152 | 391,454 | 2.3      | 10月1日現在の<br>推計人口値      |
| 29年   | 320,730 | 739,858 | 348,820 | 391,038 | 2.3      | 10月1日現在の<br>推計人口値      |
| 30年   | 323,607 | 739,556 | 348,862 | 390,694 | 2.3      | 10月1日現在の<br>推計人口値      |
| 令和元年  | 327,280 | 739,393 | 348,981 | 390,412 | 2.3      | 10月1日現在の<br>推計人口値      |
| 2年    | 330,788 | 738,567 | 348,684 | 389,883 | 2.2      | 10月1日現在の<br>推計人口値      |

※明治22年は現住戸籍及び現住人口、それ以降は備考欄記載分を除き国勢調査確定値

■人口動態の推移

|    | 平成28年  | 平成29年  | 平成30年  | 令和元年   | 令和2年   |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 転入 | 44,002 | 41,572 | 42,611 | 43,106 | 41,226 |
| 転出 | 45,328 | 40,876 | 42,693 | 42,570 | 41,236 |
| 出生 | 6,883  | 6,754  | 6,805  | 6,343  | 6,137  |
| 死亡 | 6,937  | 6,981  | 6,937  | 7,284  | 7,129  |

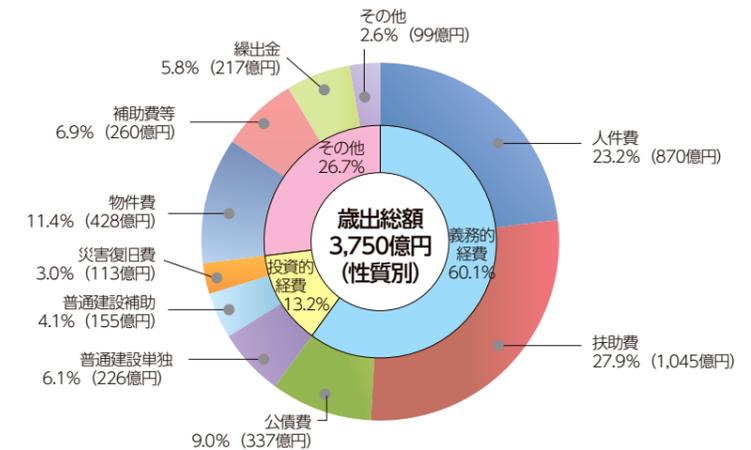
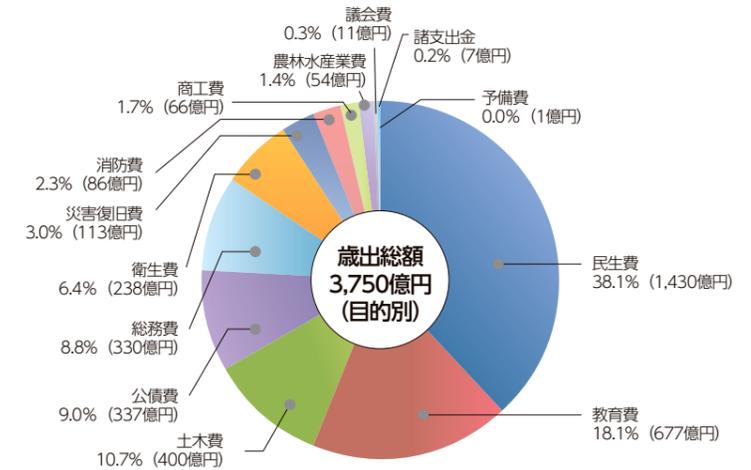
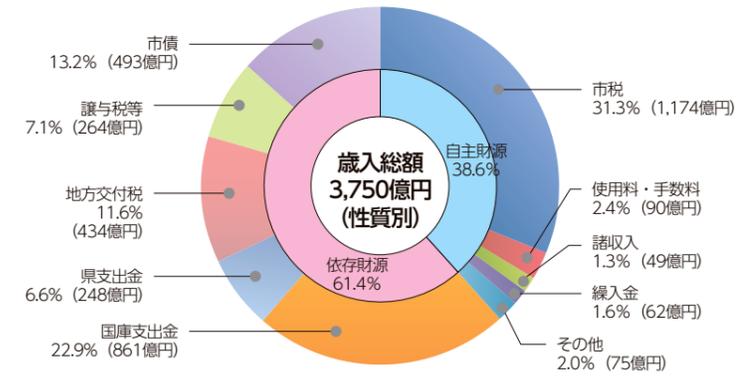
2 財政

■当初予算の比較

| 区分   | 令和3年度 | 令和2年度 | 比較  | 伸び率   |
|------|-------|-------|-----|-------|
| 一般会計 | 3,750 | 3,651 | 99  | 2.7%  |
| 特別会計 | 2,087 | 2,049 | 38  | 1.8%  |
| 企業会計 | 805   | 812   | ▲7  | ▲0.9% |
| 総計   | 6,641 | 6,512 | 129 | 2.0%  |

資料 市財政課

■令和3年度一般会計当初予算【歳入・歳出】



資料 市財政課

### ■一般会計歳入・歳出決算額の推移



### ■普通会計市債現在高の推移



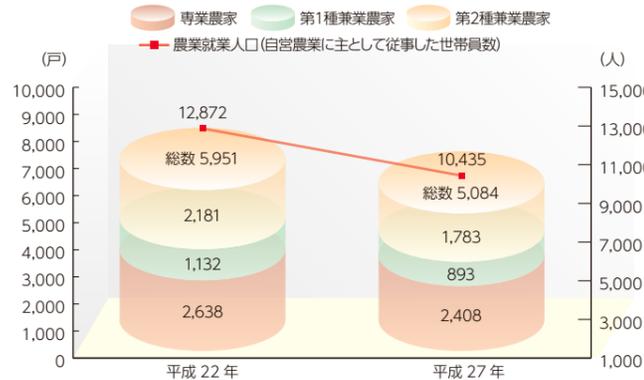
## 3 産業

### ■産業(大分類)別事業所数・従業者数(民間)

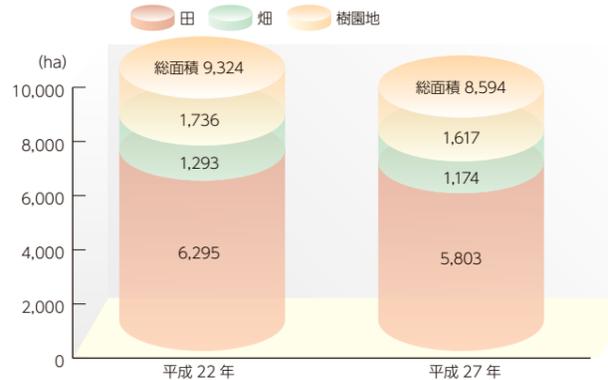
平成28年経済センサス-活動調査

|      | 総数(公務を除く) | 農林漁業  | 鉱業、採石業、砂利採取業 | 建設業    | 製造業    | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 情報通信業 | 運輸業、郵便業 | 卸売業、小売業 | 金融業、保険業 | 不動産業、物品賃貸業 | 学術研究、専門・技術サービス業 | 宿泊業、飲食サービス業 | 生活関連サービス業、娯楽業 | 教育、学習支援業 | 医療、福祉  | 複合サービス事業 | サービス業(他に分類されないもの) |
|------|-----------|-------|--------------|--------|--------|---------------|-------|---------|---------|---------|------------|-----------------|-------------|---------------|----------|--------|----------|-------------------|
| 事業所数 | 28,310    | 107   | 3            | 2,430  | 1,091  | 21            | 352   | 538     | 7,733   | 620     | 2,004      | 1,680           | 3,466       | 2,646         | 958      | 2,493  | 192      | 1,976             |
| 従業者数 | 305,105   | 1,096 | 11           | 19,748 | 21,903 | 729           | 6,659 | 10,990  | 66,166  | 11,286  | 9,163      | 9,539           | 30,097      | 13,880        | 15,159   | 57,771 | 3,519    | 27,389            |

### ■農家戸数・農家人口



### ■経営耕地面積



## 4 保健福祉

### ■医療施設

各年10月1日現在

| 年次    | 病院  |      |      |            |        |       |     |    |       |       |
|-------|-----|------|------|------------|--------|-------|-----|----|-------|-------|
|       | 施設数 |      |      |            | 病床数    |       |     |    |       |       |
|       | 総数  | 精神病院 | 一般病院 | 療養病床を有する病院 | 総数     | 精神    | 感染症 | 結核 | 一般    | 療養病床  |
| 平成29年 | 94  | 16   | 78   | 38         | 15,495 | 3,251 | 12  | 25 | 8,688 | 3,519 |
| 平成30年 | 95  | 16   | 79   | 38         | 15,481 | 3,251 | 12  | 25 | 8,758 | 3,435 |
| 令和元年  | 95  | 16   | 79   | 38         | 15,439 | 3,251 | 12  | 25 | 8,769 | 3,382 |

| 年次    | 一般診療所 |     |     |                 | 歯科診療所 |      |     |    |     |
|-------|-------|-----|-----|-----------------|-------|------|-----|----|-----|
|       | 施設数   |     |     | 療養病床を有する診療所(再掲) | 病床数   | 療養病床 | 施設数 |    |     |
|       | 総数    | 有床  | 無床  |                 |       |      | 総数  | 有床 | 無床  |
| 平成29年 | 618   | 120 | 498 | 13              | 1,828 | 143  | 391 | -  | 391 |
| 平成30年 | 623   | 118 | 505 | 13              | 1,786 | 143  | 398 | -  | 398 |
| 令和元年  | 632   | 117 | 515 | 13              | 1,783 | 142  | 405 | -  | 405 |

※一般病床には、旧その他の病床(旧療養型病床群を除く)を含む。療養病床には、旧療養型病床群を含む。 ※休止中を除く。  
資料 医療施設調査

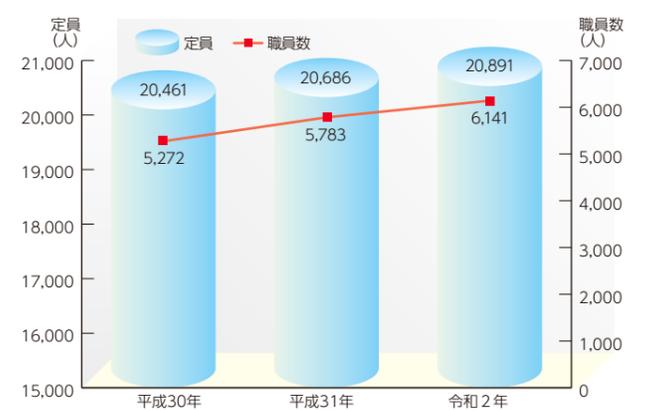
### ■保育所の状況

各年4月1日現在

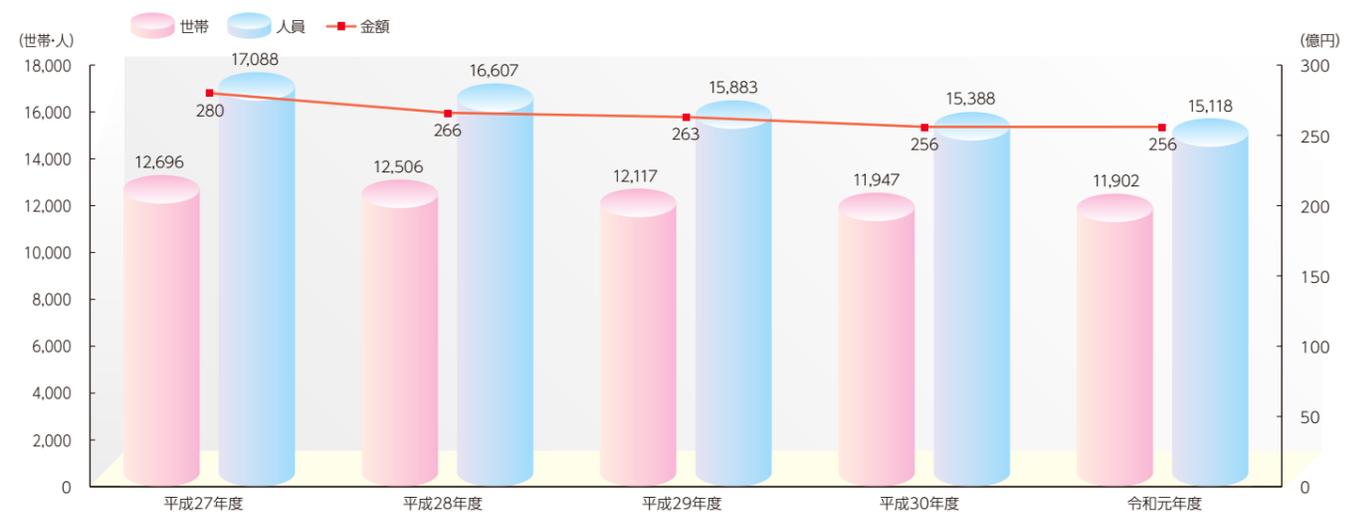
| 年次    | 保育所数 | 職員数   | 定員     | 年齢別入所者数 |       |       |       |       |       |       |
|-------|------|-------|--------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|       |      |       |        | 総数      | 5歳    | 4歳    | 3歳    | 2歳    | 1歳    | 0歳    |
| 平成30年 | 261  | 5,272 | 20,461 | 20,847  | 3,815 | 3,970 | 3,915 | 4,042 | 3,687 | 1,418 |
| 平成31年 | 262  | 5,783 | 20,686 | 21,429  | 3,993 | 4,001 | 4,028 | 4,168 | 3,755 | 1,484 |
| 令和2年  | 265  | 6,141 | 20,891 | 21,556  | 4,080 | 4,131 | 4,033 | 4,155 | 3,728 | 1,429 |
| 市立    | 19   | 552   | 1,805  | 1,765   | 396   | 375   | 358   | 314   | 234   | 88    |
| 私立    | 246  | 5,589 | 19,086 | 19,791  | 3,684 | 3,756 | 3,675 | 3,841 | 3,494 | 1,341 |

※職員数には再任用職員・非常勤職員を含む。  
※認定こども園保育所部分、地域型保育施設(事業所内保育事業の従業員枠を除く)を含む。  
※入所者数には、受託児童は含まない。  
資料 市保育幼稚園課

### ■保育所における定員と職員数の推移



### ■生活保護状況



## 5 生活・環境

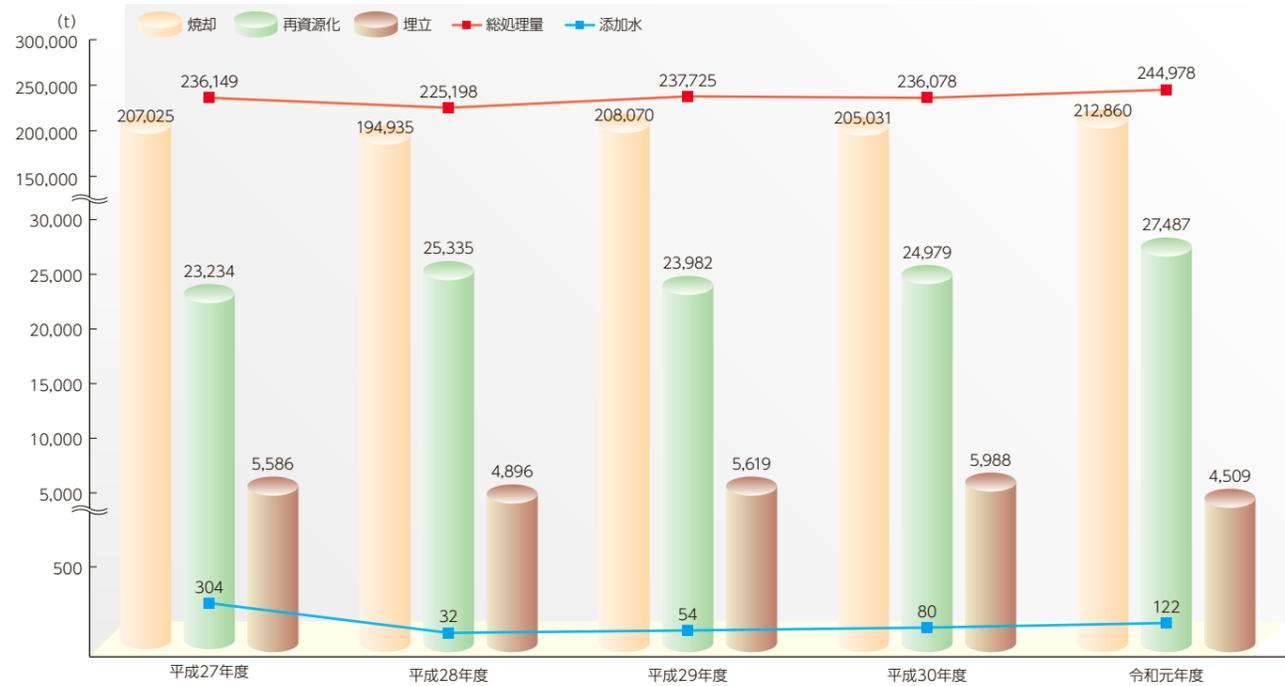
### 熊本市消費者物価指数

平成27年=100.0

| 年次    | 総合    | 食料    | 住居    | 整備修繕・維持 | 光熱・水道 | 家具・家事用品 | 被服及び履物 | 保健医療  | 交通・通信 | 教育    | 教養娯楽  | 諸雑費   | エネルギー | 教育関係費 | 教養娯楽関係費 | 情報通信関係費 |
|-------|-------|-------|-------|---------|-------|---------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|---------|
| 平成27年 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0   | 100.0 | 100.0   | 100.0  | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0   | 100.0   |
| 平成28年 | 100.5 | 102.1 | 100.6 | 105.2   | 95.9  | 101.0   | 101.3  | 100.9 | 97.9  | 102.1 | 100.9 | 100.9 | 93.1  | 101.4 | 101.3   | 99.2    |
| 平成29年 | 100.7 | 101.6 | 100.9 | 104.9   | 97.7  | 101.5   | 101.8  | 102.3 | 97.6  | 102.8 | 101.0 | 101.7 | 97.0  | 101.9 | 101.7   | 97.1    |
| 平成30年 | 101.4 | 102.3 | 101.2 | 105.0   | 100.5 | 97.9    | 101.7  | 104.1 | 99.7  | 103.0 | 100.6 | 102.4 | 104.3 | 102.2 | 101.4   | 94.8    |
| 令和元年  | 101.5 | 102.7 | 102.0 | 109.0   | 102.2 | 94.6    | 103.2  | 105.0 | 98.3  | 101.9 | 101.9 | 100.5 | 105.3 | 101.7 | 102.6   | 92.8    |

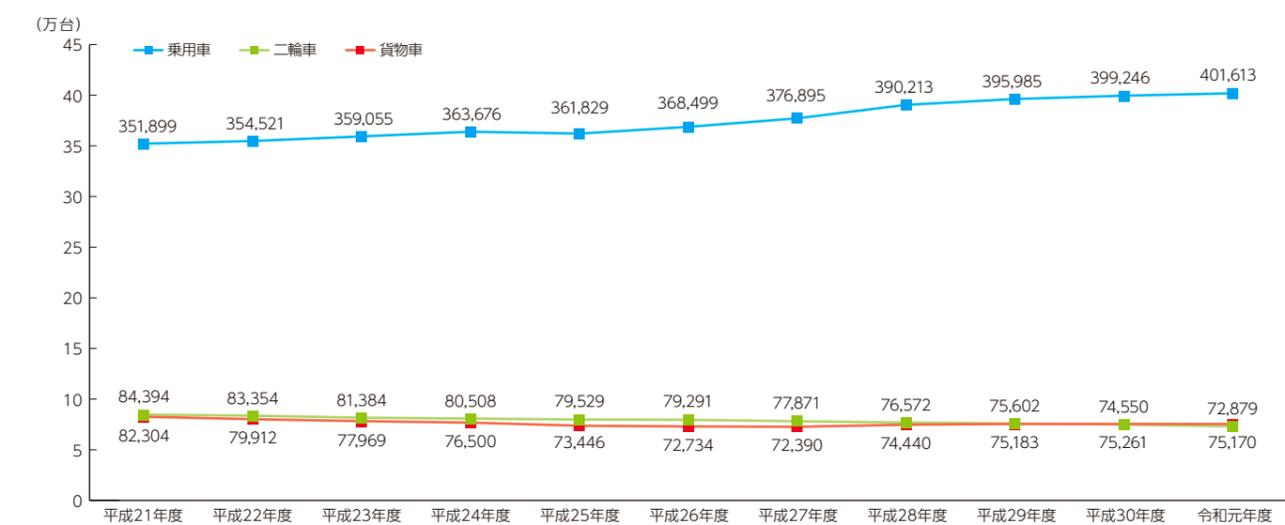
資料 総務省統計局「消費者物価指数年報」

### ごみ処理量の推移



※埋立処理量には焼却灰量は含まない。 ※旧富合町、旧城南町及び旧植木町を除く。  
資料 市廃棄物計画課

### 車種別自動車登録台数(各年度末現在)



資料 九州運輸局熊本運輸支局・市市民税課

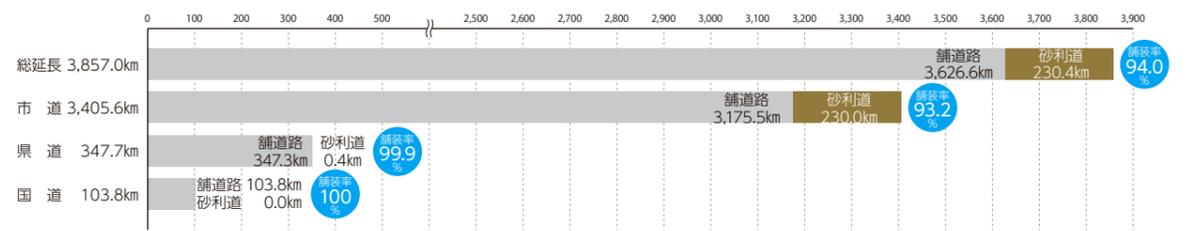
### 熊本市電の乗車人員の推移

単位:千人

| 年度   | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度  |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 乗車人員 | 11,031 | 10,709 | 11,093 | 11,080 | 11,008 |

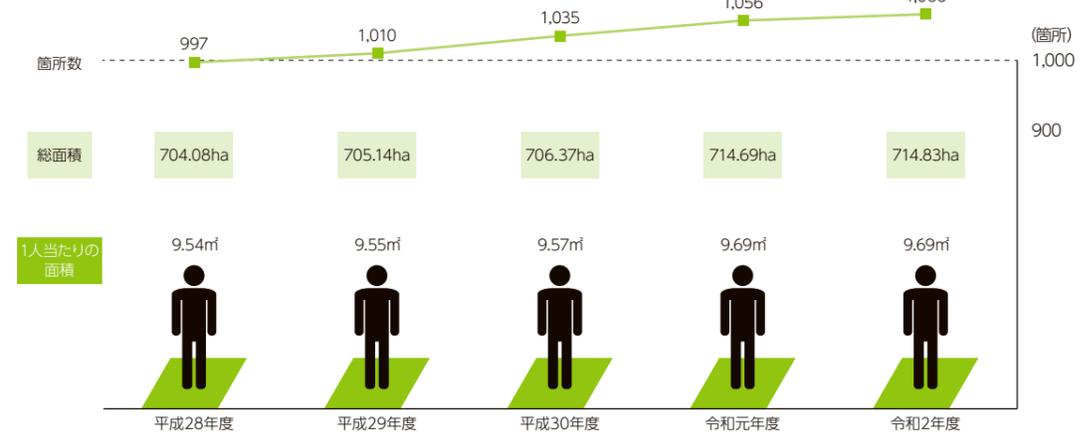
資料 交通局

### 道路の状況(令和元年度末現在)



※国道の数値は国土交通省が管理する区間を含む。  
資料 市土木管理課

### 公園数と面積(各年度末日現在)



※まちの広場は総数に含まない。  
資料 市公園課

### 下水道施設及び普及状況

| 年度     | 市域面積 (ha) | 処理区域面積 (ha) | 処理区域内人口 (A) | 普及率 (%) (A)/住基人口 | 処理下水量 (㎡)  | 水洗化戸数   |
|--------|-----------|-------------|-------------|------------------|------------|---------|
| 平成29年度 | 39,032    | 11,640      | 655,441     | 89.5             | 79,840,938 | 258,523 |
| 平成30年度 | 39,032    | 11,752      | 656,907     | 89.7             | 78,484,342 | 263,764 |
| 令和元年度  | 39,032    | 11,894      | 657,885     | 89.9             | 79,035,094 | 269,251 |

資料 市上下水道局

各年度末日現在

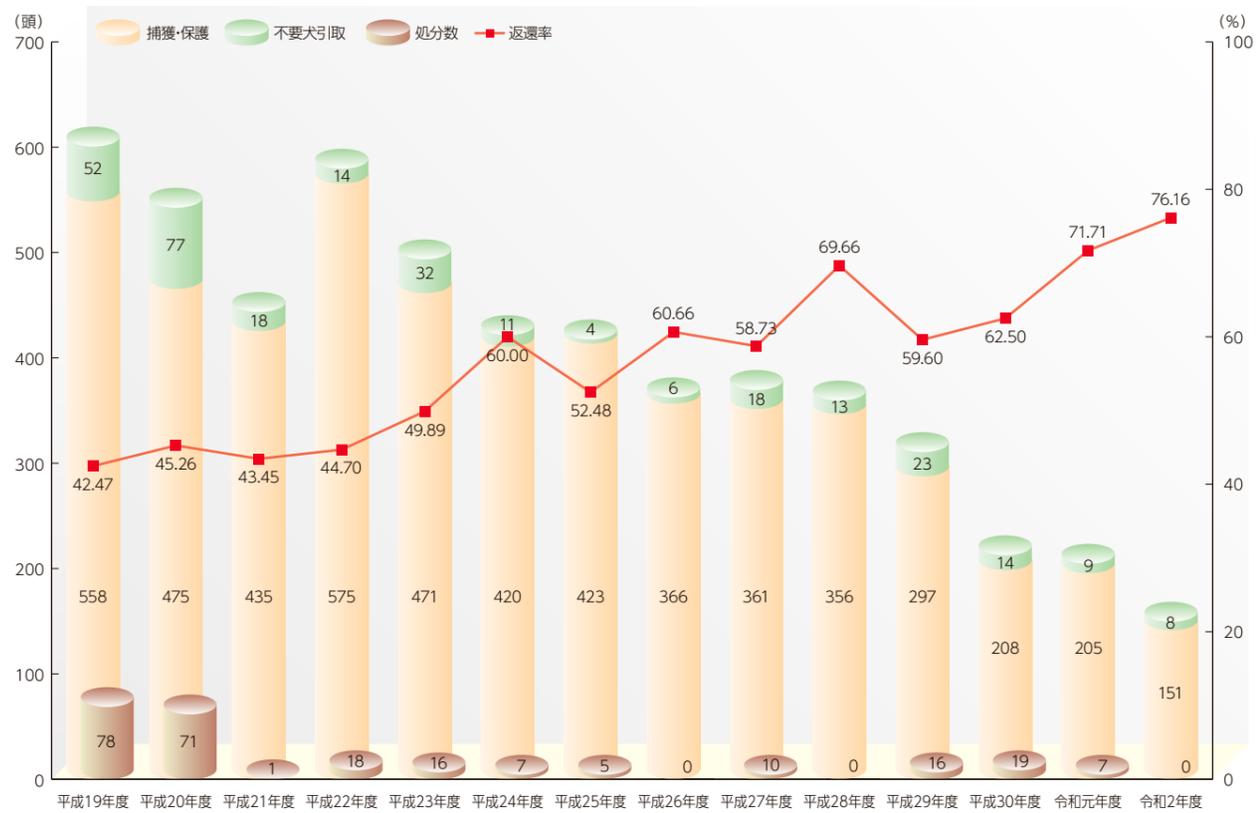
### 上水道事業の概要

| 年度     | 給水世帯 (世帯) | 計画給水人口 (人) | 給水区域内人口 (人) | 給水人口 (人) | 給水普及率 (%) | 配水量        |              |              | 年間有収水量 (1000㎡) | 有収率 (%) | 水源地 (箇所) |
|--------|-----------|------------|-------------|----------|-----------|------------|--------------|--------------|----------------|---------|----------|
|        |           |            |             |          |           | 年間 (1000㎡) | 1日最大 (1000㎡) | 1日最小 (1000㎡) |                |         |          |
| 平成29年度 | 306,314   | 719,000    | 738,407     | 704,557  | 95.4      | 81,432     | 238          | 188          | 71,279         | 88.2    | 39       |
| 平成30年度 | 309,796   | 719,000    | 738,063     | 705,889  | 95.6      | 80,608     | 238          | 187          | 70,703         | 87.7    | 38       |
| 令和元年度  | 313,528   | 719,000    | 737,598     | 706,963  | 95.8      | 79,710     | 232          | 190          | 70,161         | 88.0    | 38       |

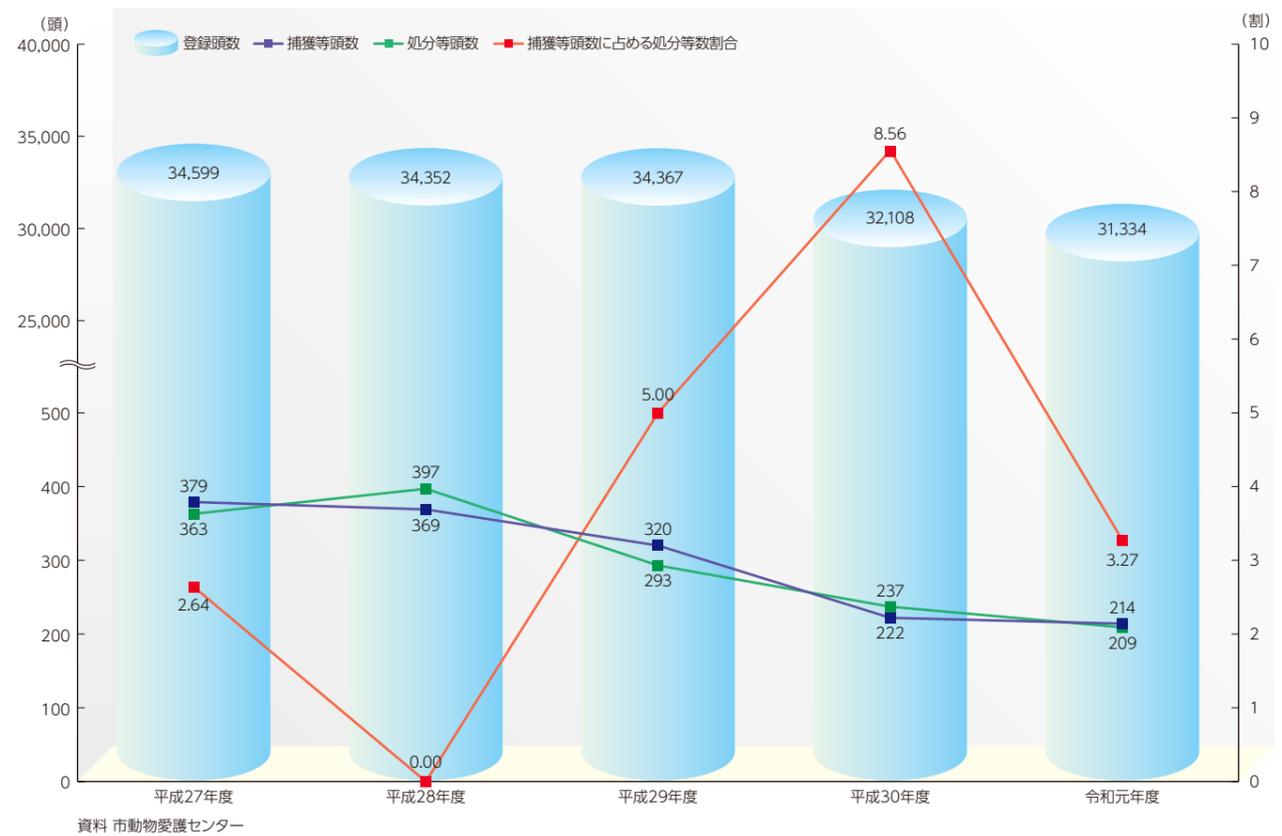
資料 市上下水道局

各年度末日現在

### ■犬の収容状況の推移

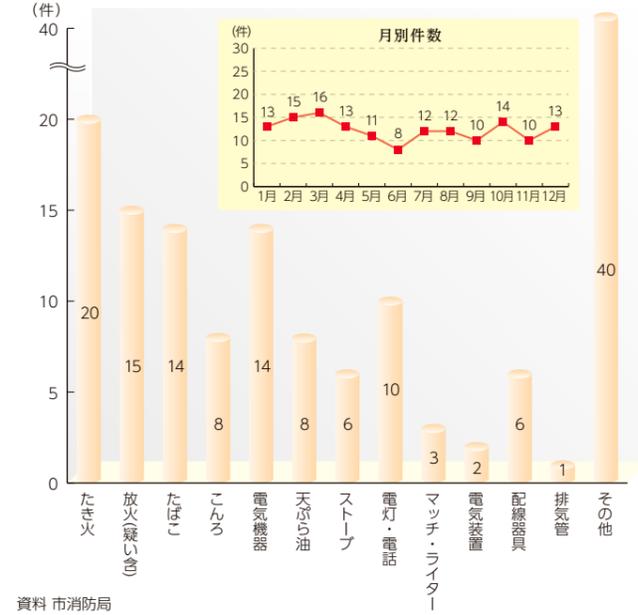


### ■犬の登録・捕獲及び処分等頭数

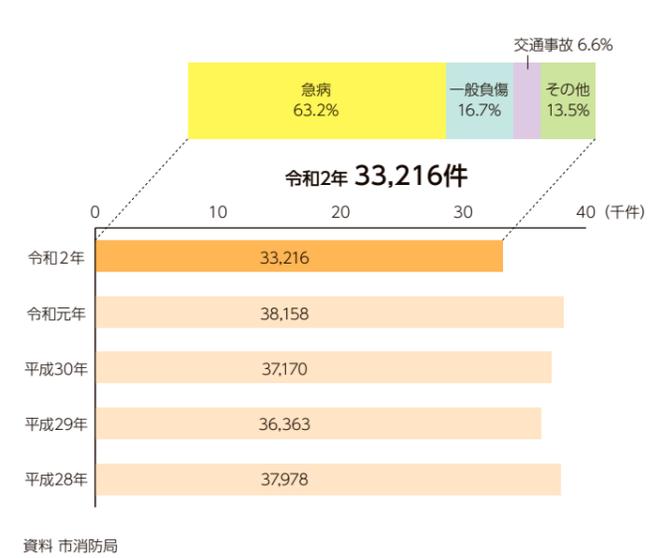


## 6 安心・安全

### ■火災発生件数(令和2年)



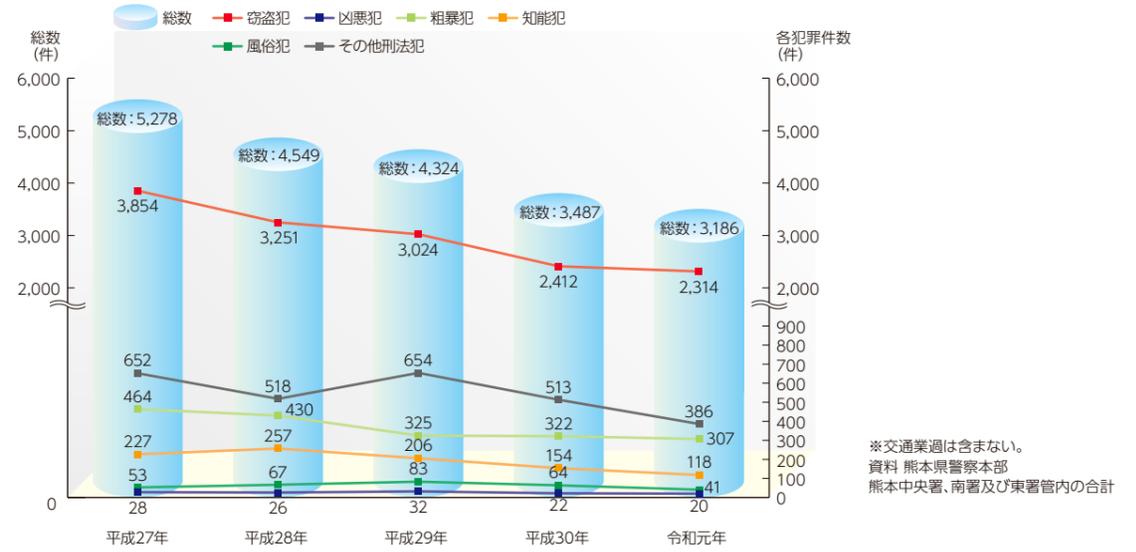
### ■救急車出動件数



### ■交通事故の状況



### ■刑法犯罪認知件数



## 7 教育・文化・観光

### ■学校(園)数及び児童生徒(園児)数の推移

各年5月1日現在

| 年次    | 幼稚園 |       | 幼保連携型認定こども園 |        | 小学校 |        | 中学校 |        | 高校  |        | 短期大学 |     | 大学  |        | 専修・各種学校 |       |
|-------|-----|-------|-------------|--------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|------|-----|-----|--------|---------|-------|
|       | 施設数 | 園児数   | 施設数         | 園児数    | 学校数 | 児童数    | 学校数 | 生徒数    | 学校数 | 生徒数    | 学校数  | 学生数 | 学校数 | 学生数    | 学校数     | 学生数   |
| 平成30年 | 37  | 5,099 | 65          | 10,690 | 93  | 41,693 | 53  | 20,928 | 27  | 26,452 | 1    | 533 | 8   | 23,478 | 41      | 8,005 |
| 令和元年  | 37  | 4,929 | 72          | 11,527 | 93  | 41,569 | 53  | 20,863 | 27  | 25,993 | 1    | 533 | 8   | 23,437 | 40      | 7,797 |
| 令和2年  | 37  | 4,839 | 75          | 11,930 | 93  | 41,351 | 52  | 20,986 | 27  | 25,746 | 1    | 533 | 8   | 23,264 | 38      | 7,900 |

資料 学校基本調査

### ■市立図書館蔵書冊数

単位:冊

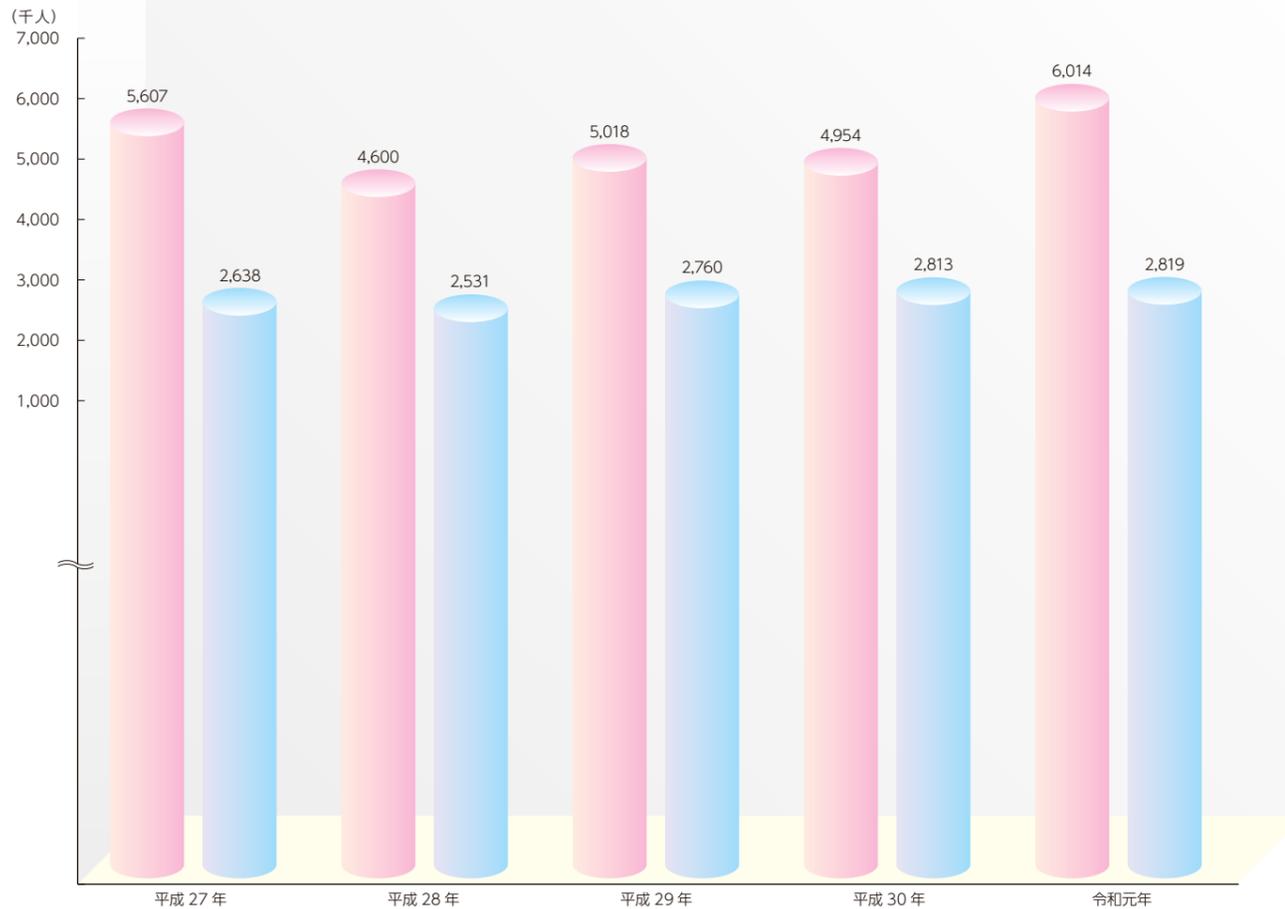
| 年度    | 総数        | 総記     | 哲学     | 歴史(地理)  | 社会科学    | 自然科学    | 技術(家政学) | 産業     | 芸術      | 語学     | 文学      | 小説      | 絵本      |
|-------|-----------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|--------|---------|---------|---------|
| 令和元年度 | 1,589,647 | 37,845 | 60,989 | 120,609 | 189,469 | 120,076 | 124,966 | 53,584 | 121,432 | 26,914 | 225,934 | 282,304 | 182,306 |

※総数と各分野の合計数が一致しないのは、紙芝居4,994冊とコミック4,823冊、その他19,812冊、視聴覚13,590点が含まれていないため。

資料 市立図書館

### ■観光客数(推計)

観光客数 宿泊客数



資料 市観光統計

## 8 市民の暮らし

### 世帯人口

1世帯当り **2.2**人



令和3年4月1日

### 人口密度

1km<sup>2</sup>に **1,889**人



令和3年4月1日

### 乗用自動車

1世帯に **1.2**台



令和元年度末

### 出生

1日につき **16.8**人



令和2年

### 死亡

1日につき **19.5**人



令和2年

### 転入

1日につき **112.6**人



令和2年

### 転出

1日につき **112.7**人



令和2年

### 結婚

1日につき **9.96**組



令和2年

### 離婚

1日につき **3.48**組



令和2年

### 犯罪

1日につき **8.7**件



令和元年

### 火災

1日に **0.4**件



令和2年

### 交通事故

1日に **5.7**件



令和元年

### 酒

1人1日 **0.03**リットル



令和元年度

### 市職員

市民**74**人に **1**人  
(教員及び消防職員も含む)



令和2年4月1日

### 消防職員

市民**905**人に**1**人



令和2年4月1日

### 水道使用量

1日1人当たり **219**リットル



令和元年度末

### ごみ収集量

1日に **669.3**トン



令和元年度

### 市税

市民1人当たり **160,646**円



令和元年度

### 市の予算

市民1人当たり **508,481**円



令和3年度当初予算額

## 9 日本一住みやすいまちを目指して(政令指定都市比較)

| 順位 | 市域面積 (km <sup>2</sup> ) |          |
|----|-------------------------|----------|
| 1  | 浜松市                     | 1,558.06 |
| 2  | 静岡市                     | 1,411.83 |
| 3  | 札幌市                     | 1,121.26 |
| 4  | 広島市                     | 906.69   |
| 5  | 京都市                     | 827.83   |
| 6  | 岡山市                     | 789.95   |
| 7  | 仙台市                     | 786.35   |
| 8  | 新潟市                     | 726.27   |
| 9  | 神戸市                     | 557.02   |
| 10 | 北九州市                    | 491.69   |
| 11 | 横浜市                     | 437.71   |
| 12 | 熊本市                     | 390.32   |
| 13 | 福岡市                     | 343.46   |
| 14 | 相模原市                    | 328.91   |
| 15 | 名古屋市                    | 326.50   |
| 16 | 千葉市                     | 271.78   |
| 17 | 大阪市                     | 225.32   |
| 18 | さいたま市                   | 217.43   |
| 19 | 堺市                      | 149.83   |
| 20 | 川崎市                     | 144.35   |

令和3年1月1日

| 順位 | 世帯 (世帯) |           |
|----|---------|-----------|
| 1  | 横浜市     | 1,762,920 |
| 2  | 大阪市     | 1,470,189 |
| 3  | 名古屋市    | 1,131,556 |
| 4  | 札幌市     | 970,131   |
| 5  | 福岡市     | 832,876   |
| 6  | 川崎市     | 752,694   |
| 7  | 神戸市     | 736,539   |
| 8  | 京都市     | 729,254   |
| 9  | さいたま市   | 591,882   |
| 10 | 広島市     | 557,992   |
| 11 | 仙台市     | 525,793   |
| 12 | 千葉市     | 451,259   |
| 13 | 北九州市    | 435,354   |
| 14 | 堺市      | 362,201   |
| 15 | 新潟市     | 344,086   |
| 16 | 岡山市     | 334,876   |
| 17 | 相模原市    | 333,957   |
| 18 | 熊本市     | 332,184   |
| 19 | 浜松市     | 327,870   |
| 20 | 静岡市     | 298,011   |

令和3年4月1日

| 順位 | 人口 (人) |           |
|----|--------|-----------|
| 1  | 横浜市    | 3,776,146 |
| 2  | 大阪市    | 2,753,819 |
| 3  | 名古屋市   | 2,320,719 |
| 4  | 札幌市    | 1,974,212 |
| 5  | 福岡市    | 1,616,351 |
| 6  | 川崎市    | 1,539,946 |
| 7  | 神戸市    | 1,521,777 |
| 8  | 京都市    | 1,452,037 |
| 9  | さいたま市  | 1,323,405 |
| 10 | 広島市    | 1,195,994 |
| 11 | 仙台市    | 1,094,919 |
| 12 | 千葉市    | 983,211   |
| 13 | 北九州市   | 934,130   |
| 14 | 堺市     | 825,632   |
| 15 | 新潟市    | 789,239   |
| 16 | 浜松市    | 786,853   |
| 17 | 熊本市    | 737,490   |
| 18 | 相模原市   | 722,715   |
| 19 | 岡山市    | 719,134   |
| 20 | 静岡市    | 684,622   |

令和3年4月1日

| 順位 | 事業所数 (所) |         |
|----|----------|---------|
| 1  | 大阪市      | 179,252 |
| 2  | 名古屋市     | 119,510 |
| 3  | 横浜市      | 114,930 |
| 4  | 札幌市      | 72,451  |
| 5  | 福岡市      | 72,284  |
| 6  | 京都市      | 70,637  |
| 7  | 神戸市      | 66,882  |
| 8  | 広島市      | 53,327  |
| 9  | 仙台市      | 48,419  |
| 10 | 北九州市     | 41,772  |
| 11 | さいたま市    | 41,330  |
| 12 | 川崎市      | 40,934  |
| 13 | 浜松市      | 35,552  |
| 14 | 新潟市      | 35,510  |
| 15 | 静岡市      | 35,194  |
| 16 | 岡山市      | 31,798  |
| 17 | 千葉市      | 29,326  |
| 18 | 堺市       | 28,733  |
| 19 | 熊本市      | 28,310  |
| 20 | 相模原市     | 22,480  |

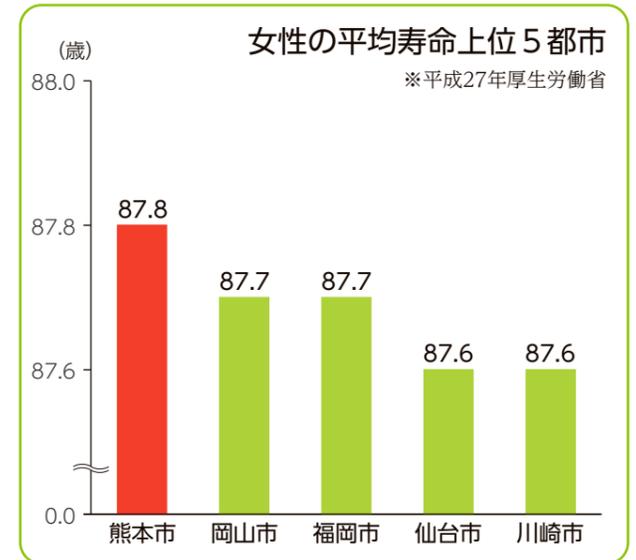
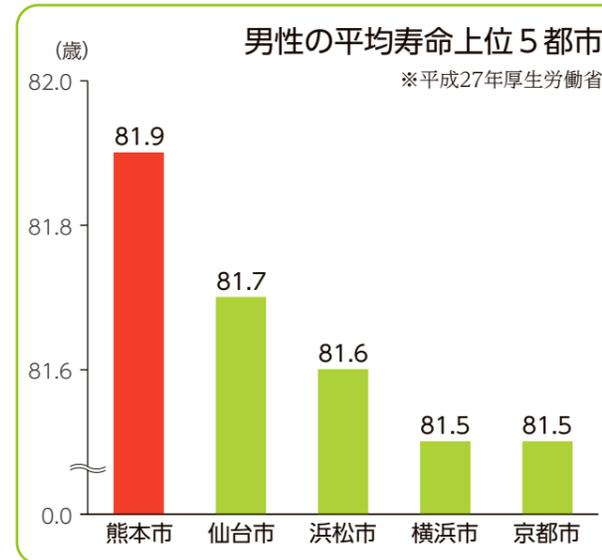
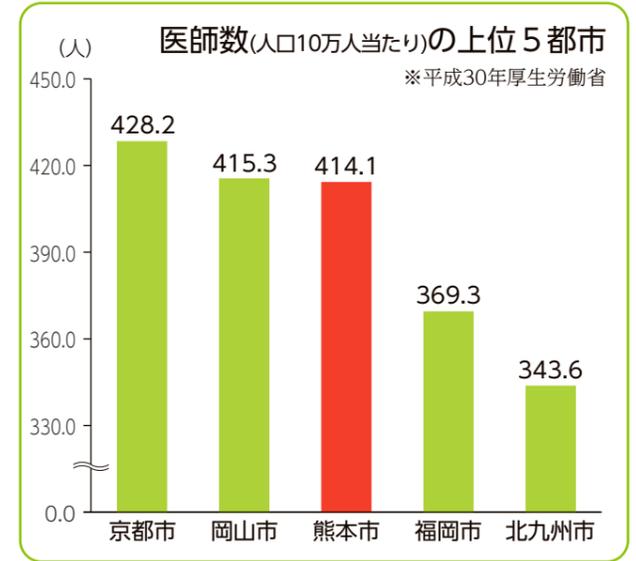
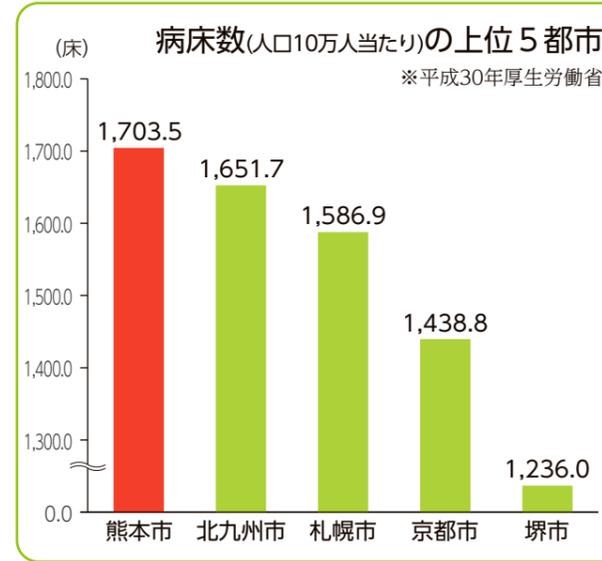
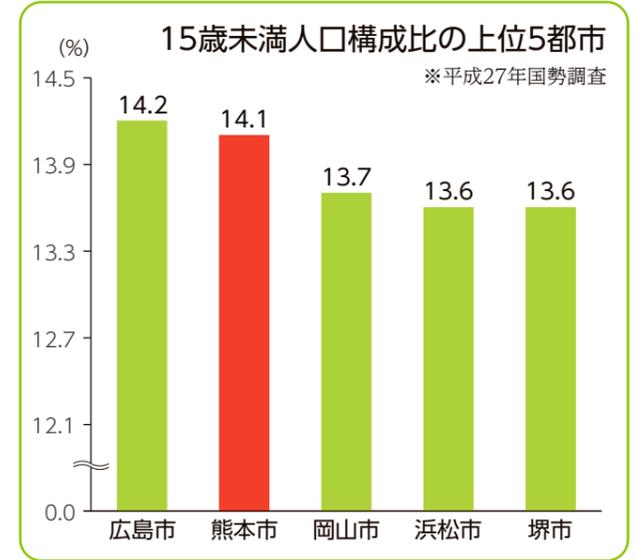
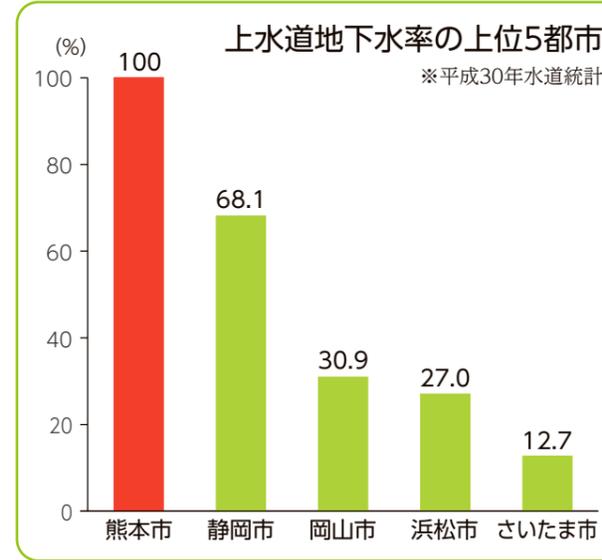
平成28年経済センサス-活動調査

| 順位 | 従業員数 (人) |           |
|----|----------|-----------|
| 1  | 大阪市      | 2,209,412 |
| 2  | 横浜市      | 1,475,974 |
| 3  | 名古屋市     | 1,417,153 |
| 4  | 福岡市      | 866,930   |
| 5  | 札幌市      | 838,911   |
| 6  | 京都市      | 739,542   |
| 7  | 神戸市      | 727,130   |
| 8  | 広島市      | 581,331   |
| 9  | 仙台市      | 554,801   |
| 10 | 川崎市      | 543,812   |
| 11 | さいたま市    | 509,450   |
| 12 | 北九州市     | 434,714   |
| 13 | 千葉市      | 406,378   |
| 14 | 浜松市      | 367,526   |
| 15 | 新潟市      | 364,667   |
| 16 | 岡山市      | 341,398   |
| 17 | 静岡市      | 340,623   |
| 18 | 堺市       | 314,806   |
| 19 | 熊本市      | 305,105   |
| 20 | 相模原市     | 248,832   |

平成28年経済センサス-活動調査

| 順位 | 着工新設住宅戸数 (戸) |        |
|----|--------------|--------|
| 1  | 大阪市          | 31,362 |
| 2  | 横浜市          | 29,306 |
| 3  | 名古屋市         | 27,046 |
| 4  | 川崎市          | 16,965 |
| 5  | 札幌市          | 15,999 |
| 6  | 福岡市          | 15,033 |
| 7  | さいたま市        | 12,465 |
| 8  | 仙台市          | 10,893 |
| 9  | 京都市          | 9,904  |
| 10 | 広島市          | 8,359  |
| 11 | 神戸市          | 8,273  |
| 12 | 熊本市          | 7,853  |
| 13 | 千葉市          | 7,302  |
| 14 | 北九州市         | 6,601  |
| 15 | 浜松市          | 5,316  |
| 16 | 岡山市          | 5,101  |
| 17 | 新潟市          | 4,846  |
| 18 | 堺市           | 4,757  |
| 19 | 相模原市         | 4,721  |
| 20 | 静岡市          | 4,231  |

平成31年(令和元年)建築着工統計調査



## 10 日本一住みやすいまちを目指して(九州山口各県庁所在地比較)

(km<sup>2</sup>)

| 順位 | 市域面積 |          |
|----|------|----------|
| 1  | 山口市  | 1,023.23 |
| 2  | 宮崎市  | 643.54   |
| 3  | 鹿児島市 | 547.61   |
| 4  | 大分市  | 502.39   |
| 5  | 佐賀市  | 431.82   |
| 6  | 長崎市  | 405.86   |
| 7  | 熊本市  | 390.32   |
| 8  | 福岡市  | 343.46   |
| 9  | 那覇市  | 41.42    |

令和3年1月1日

(世帯)

| 順位 | 世帯   |         |
|----|------|---------|
| 1  | 福岡市  | 832,876 |
| 2  | 熊本市  | 332,184 |
| 3  | 鹿児島市 | 279,079 |
| 4  | 大分市  | 214,231 |
| 5  | 長崎市  | 185,506 |
| 6  | 宮崎市  | 183,784 |
| 7  | 那覇市  | 155,473 |
| 8  | 佐賀市  | 102,057 |
| 9  | 山口市  | 87,561  |

令和3年4月1日

(人)

| 順位 | 人口   |           |
|----|------|-----------|
| 1  | 福岡市  | 1,616,351 |
| 2  | 熊本市  | 737,490   |
| 3  | 鹿児島市 | 592,995   |
| 4  | 大分市  | 475,962   |
| 5  | 長崎市  | 403,197   |
| 6  | 宮崎市  | 396,508   |
| 7  | 那覇市  | 314,889   |
| 8  | 佐賀市  | 231,439   |
| 9  | 山口市  | 192,915   |

令和3年4月1日

(所)

| 順位 | 事業所数 |        |
|----|------|--------|
| 1  | 福岡市  | 72,284 |
| 2  | 熊本市  | 28,310 |
| 3  | 鹿児島市 | 27,279 |
| 4  | 大分市  | 19,724 |
| 5  | 長崎市  | 18,840 |
| 6  | 宮崎市  | 18,762 |
| 7  | 那覇市  | 17,339 |
| 8  | 佐賀市  | 11,659 |
| 9  | 山口市  | 8,777  |

平成28年経済センサス-活動調査

(人)

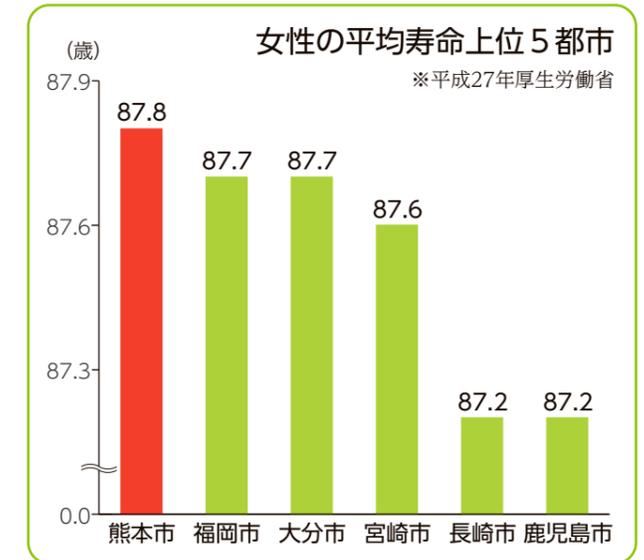
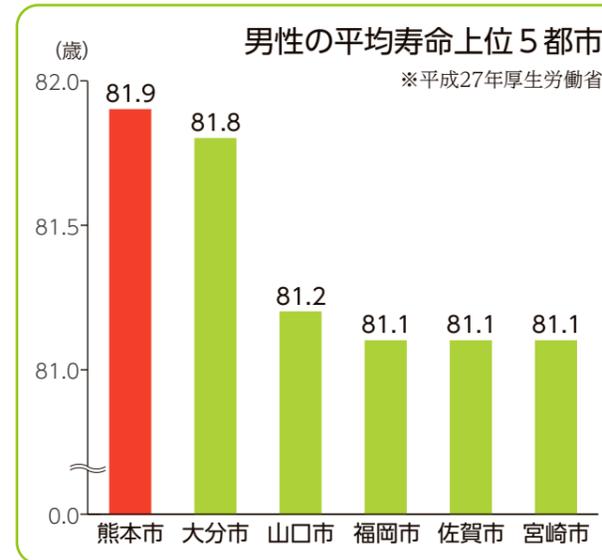
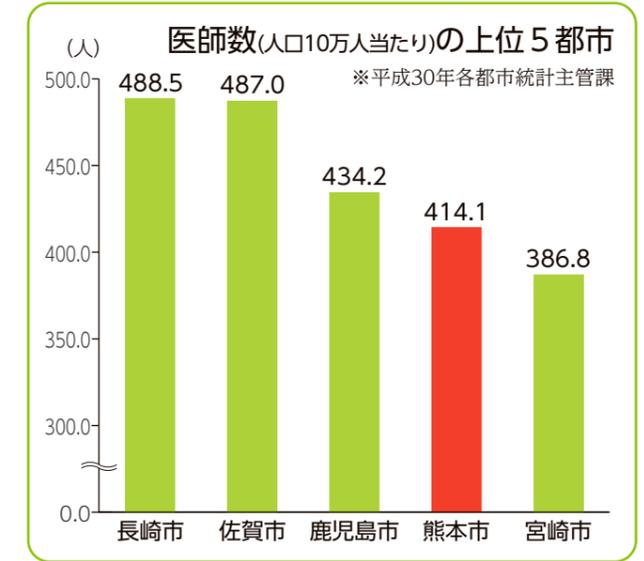
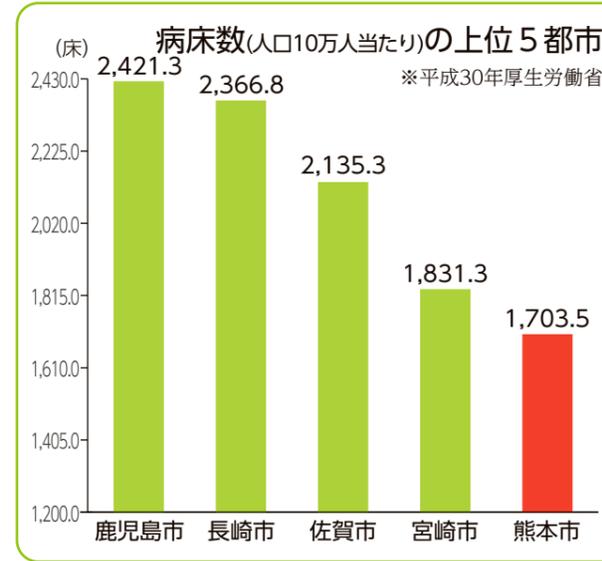
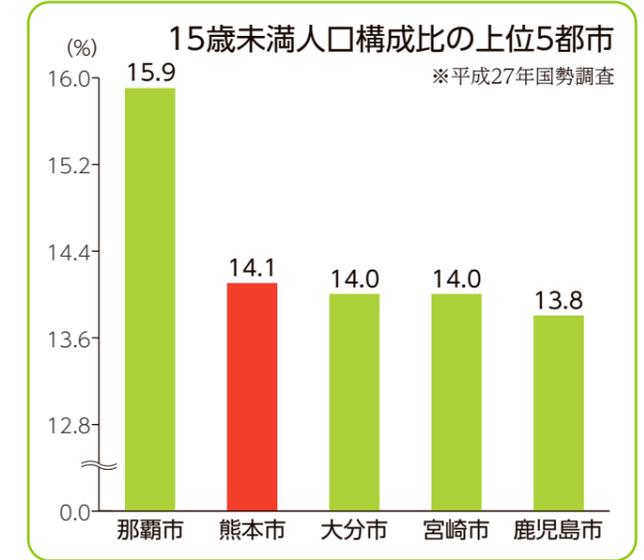
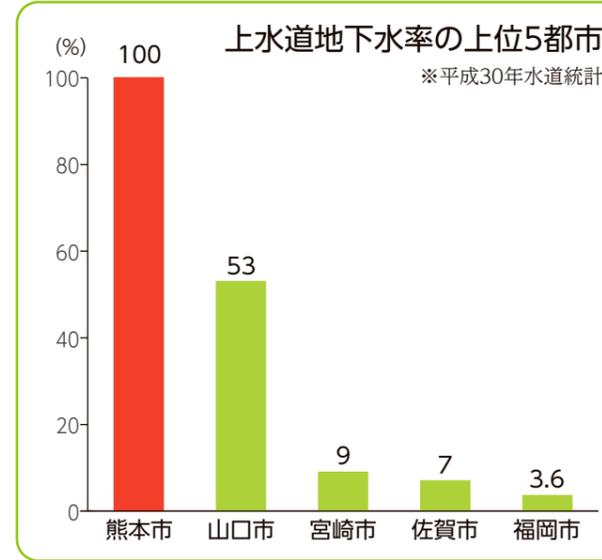
| 順位 | 従業員数 |         |
|----|------|---------|
| 1  | 福岡市  | 866,930 |
| 2  | 熊本市  | 305,105 |
| 3  | 鹿児島市 | 274,569 |
| 4  | 大分市  | 214,982 |
| 5  | 長崎市  | 187,492 |
| 6  | 宮崎市  | 175,273 |
| 7  | 那覇市  | 156,031 |
| 8  | 佐賀市  | 112,747 |
| 9  | 山口市  | 87,967  |

平成28年経済センサス-活動調査

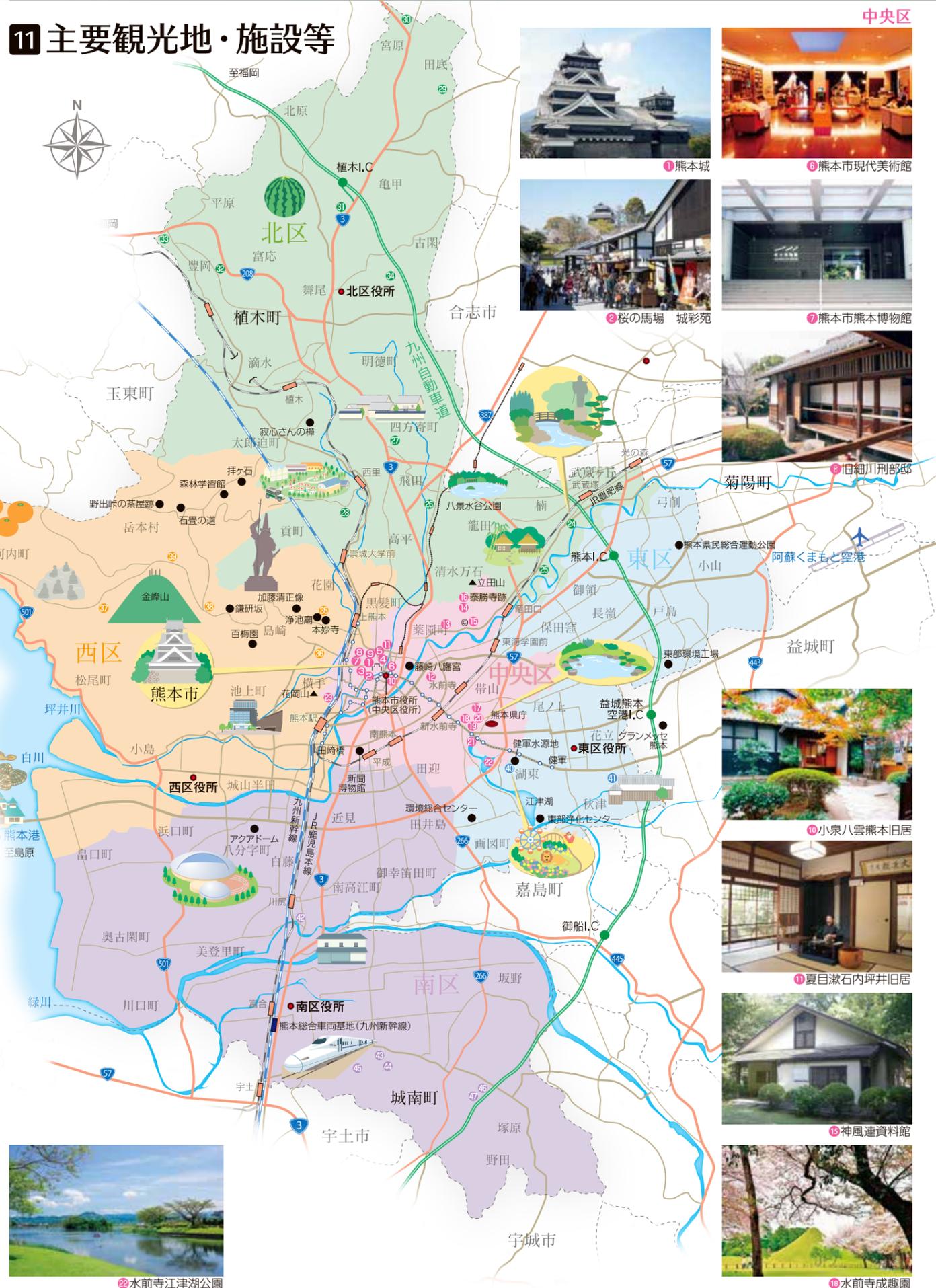
(戸)

| 順位 | 着工新設住宅戸数 |        |
|----|----------|--------|
| 1  | 福岡市      | 15,033 |
| 2  | 熊本市      | 7,853  |
| 3  | 鹿児島市     | 3,990  |
| 4  | 大分市      | 3,680  |
| 5  | 那覇市      | 2,902  |
| 6  | 長崎市      | 2,260  |
| 7  | 宮崎市      | 1,922  |
| 8  | 佐賀市      | 1,701  |
| 9  | 山口市      | 1,117  |

令和元年建築着工統計調査



# 11 主要観光地・施設等



## 中央区

- | 名称               | 所在地                     |
|------------------|-------------------------|
| <b>中央区</b>       |                         |
| 1 熊本城            | 本丸                      |
| 2 桜の馬場 城彩苑       | 二の丸                     |
| 3 熊本県立美術館(本館)    | 二の丸                     |
| 4 熊本県立美術館(分館)    | 千葉城町                    |
| 5 熊本県伝統工芸館       | 千葉城町                    |
| 6 熊本市現代美術館       | 上通町                     |
| 7 熊本市熊本博物館       | 古京町                     |
| 8 旧細川刑部邸         | 古京町                     |
| 9 監物台樹木園         | 二の丸                     |
| 10 小泉八雲熊本旧居      | 安政町                     |
| 11 夏目漱石内坪井旧居     | 内坪井町                    |
| 12 徳富記念園         | 大江4丁目                   |
| 13 五高記念館         | 黒髪2丁目                   |
| 14 リデル、ライト両女史記念館 | 黒髪5丁目                   |
| 15 神風連資料館        | 黒髪5丁目                   |
| 16 立田自然公園        | 黒髪4丁目                   |
| 17 後藤是山記念館       | 水前寺2丁目                  |
| 18 水前寺成趣園        | 水前寺公園                   |
| 19 熊本洋学校教師ジェーンズ邸 | 水前寺公園                   |
| 20 夏目漱石大江旧居      | 水前寺公園                   |
| 21 くまもと文学・歴史館    | 出水2丁目                   |
| 22 水前寺江津湖公園      | 出水2丁目<br>神水本町他<br>横手2丁目 |
| 23 北岡自然公園        |                         |

- |                  |         |
|------------------|---------|
| <b>北区</b>        |         |
| 24 武蔵塚公園         | 龍田弓削1丁目 |
| 25 熊本国際民藝館       | 龍田1丁目   |
| 26 熊本市水の科学館      | 八景水谷1丁目 |
| 27 御馬下の角小屋       | 四方奇町    |
| 28 フードパル熊本       | 貢町      |
| 29 植木温泉          | 植木町米塚   |
| 30 宮原温泉          | 植木町宮原   |
| 31 種田山頭火・味取観音堂   | 植木町味取   |
| 32 熊本市田原坂西南戦争資料館 | 植木町豊岡   |
| 33 豊岡の眼鏡橋        | 植木町豊岡   |
| 34 小野泉水公園        | 植木町小野   |

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| <b>西区</b>         |       |
| 35 本妙寺            | 花園4丁目 |
| 36 島田美術館          | 島崎4丁目 |
| 37 霊巖洞・五百羅漢(雲巖禅寺) | 松尾町平山 |
| 38 峠の茶屋公園         | 河内町岳  |
| 39 金峰森の駅 みちくさ館    | 河内町岳  |

- |            |        |
|------------|--------|
| <b>東区</b>  |        |
| 40 熊本市動植物園 | 健軍5丁目  |
| 41 横井小楠記念館 | 沼山津1丁目 |

- |                 |       |
|-----------------|-------|
| <b>南区</b>       |       |
| 42 くまもと工芸会館     | 川尻1丁目 |
| 43 雁回山長寿寺 木原不動尊 | 富合町木原 |
| 44 六殿神社         | 富合町木原 |
| 45 雁回山自然公園      | 富合町平原 |
| 46 熊本市塚原歴史民俗資料館 | 城南町塚原 |
| 47 塚原古墳公園       | 城南町塚原 |

## 北区



## 西区



## 東区



## 南区



資料 市観光政策課

# 12 熊本市のあゆみ

| 西暦        | 和暦  | 熊本市の動き  |
|-----------|-----|---|
| <b>明治</b> |     |   |
| 1870      | 3年  | 細川護久熊本藩知事となる<br>古城に医学校開校  |
| 1871      | 4年  | 廃藩置県により熊本藩は熊本県となる<br>鎮西鎮台(九州及び中国西部を管轄)が設置<br>熊本洋学校開校                      |
| 1872      | 5年  | 熊本県を白川県と改称<br>明治天皇の熊本行幸   |
| 1877      | 10年 | 西南戦争<br>(市街地の大半が兵火により焼失、熊本城天守閣炎上)   |
| 1887      | 20年 | 第五高等中学校(九州に1校)の設置   |
| 1888      | 21年 | 熊本鎮台 第六師団と改称  |
| 1889      | 22年 | 市町村制が施行され熊本市誕生<br>第一回熊本市会議員選挙<br>現在の白川公園前に市役所開庁<br>明治熊本地震発生               |
| 1891      | 24年 | 高瀬・熊本市春日間の九州鉄道が開通<br>熊本電燈会社が開業し九州に初めて電燈がともる<br>ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)第五高等中学校に着任 |
| 1892      | 25年 | 塘林虎五郎が貧児寮(大江学園)を設立  |
| 1893      | 26年 | 内村鑑三、熊本英学校教師として着任   |
| 1894      | 27年 | 第五高等中学校は第五高等学校と改称   |
| 1895      | 28年 | ハンナ・リデル女史が回春病院設立  |
| 1896      | 29年 | 夏目漱石が第五高等学校に着任  |
| 1898      | 31年 | ジョン・メリー・コール神父がらい救済の待労院設立<br>市立熊本伝染病院落成                                    |
| 1900      | 33年 | 白川大水害、明午・安巳・長六橋流失   |
| 1901      | 34年 | 熊本電話交換局船場町に開設 電話交換業務開始<br>第1回熊本市統計書を発行                                    |
| 1906      | 39年 | 第五高等学校工学部が独立し、熊本高等工業学校と改称   |
| 1907      | 40年 | 安巳橋・水前寺間に軽便鉄道開業   |
| 1909      | 42年 | 九州縦貫の幹線鉄道(鹿児島線、門司・鹿児島間)実現   |
| 1911      | 44年 | 市立実科高等女学校開校<br>菊池軌道株式会社が上熊本・広町間開業   |
| <b>大正</b> |     |   |
| 1912      | 元年  | 熊本軌道が檜崎・百貫石間開通  |
| 1913      | 2年  | 熊本市初の工業統計調査を実施<br>肥後相撲館開館   |
| 1920      | 9年  | 第1回国勢調査 市人口70,338人、戸数13,817戸  |
| 1921      | 10年 | 大熊本市誕生(11カ町村合併:黒髪・池田・花園・島崎・横手・春日・古町・本荘・春竹・大江・本山)                          |
| 1922      | 11年 | 市立実科高等女学校が市立高等女学校と改称  |

| 世の中の動き                |
|-----------------------|
| 太陽暦を採用                |
| 1876 白川県を熊本県と改称       |
| 東京電灯会社初めて点灯           |
| 大日本帝国憲法の公布            |
| 大津事件                  |
| 日清戦争始まる               |
| 治安警察法公布               |
| 1904 日露戦争始まる          |
| 1912 スtockホルム五輪に日本初参加 |
| 1914 第一次世界大戦          |
| 1918 スペイン風邪が流行        |
| 国際連盟発足                |



第五高等学校



旧熊本駅



軽便鉄道

| 西暦        | 和暦  | 熊本市の動き  | 世の中の動き   |
|-----------|-----|---|--|
| 1923      | 12年 | 手取本町に市役所新庁舎落成   | 関東大震災  |
| 1924      | 13年 | 市営電車開通(開通に伴い大甲橋を架設)<br>市上水道通水開始<br>歩兵第二十三連隊の留守隊、渡鹿に移転   | 市三大事業  |
| 1925      | 14年 | 市三大事業記念国産共進会開催(入場者133万人)<br>飽託郡出水村が市と合併   |  |
| <b>昭和</b> |     |   |  |
| 1927      | 2年  | 長六橋開通<br>市営乗合自動車(市営バス)が7台で営業を開始   | 国有鉄道鹿児島本線全通  |
| 1928      | 3年  | 熊本放送局JOGK開局(ラジオ初放送)<br>水前寺公設グラウンド開場(陸上競技場・野球場)  | 世界恐慌始まる  |
| 1929      | 4年  | 熊本動物園が水前寺公園内に開園   | 満州事変始まる  |
| 1930      | 5年  | 熊本市歌を制定<br>花畑町に市勸業館が落成、開館<br>市公会堂新館が落成  |  |
| 1931      | 6年  | 白坪村を市に編入  | 日本、国際連盟脱退  |
| 1932      | 7年  | 飽託郡画図村が市と合併、画図町となる  |  |
| 1933      | 8年  | 熊本城宇土櫓国宝に指定   | 1937 ヘレン・ケラー来熊<br>1937 日中戦争始まる                           |
| 1935      | 10年 | 新興熊本大博覧会を開催   |  |
| 1936      | 11年 | 飽託郡健軍村が市と合併   | 1941 太平洋戦争始まる  |
| 1939      | 14年 | 飽託郡清水村が市と合併   |  |
| 1940      | 15年 | 飽託郡川尻町、日吉村、力合村を市に編入   | 太平洋戦争終結<br>日本国憲法公布<br>1947 地方自治法公布<br>婦人に初の参政権<br>大韓民国誕生 |
| 1942      | 17年 | 九州日日新聞と九州新聞が統合され熊本日日新聞発足<br>健軍町に三菱重工業株式会社熊本航空機製作所設立   |  |
| 1944      | 19年 | 市電氣局が市交通局と改称  | 市消防本部  |
| 1945      | 20年 | アメリカ軍が熊本市を空襲(中心市街地の大半が焼失)   |  |
| 1946      | 21年 | 市立民生病院発足  | 熊本市消防本部  |
| 1948      | 23年 | 市消防本部設置<br>市立母子寮を設置<br>熊本中央児童相談所が古城町に設置<br>市立高等女学校が市立女子高等学校と改称                                      |  |
| 1949      | 24年 | 市立女子高等学校が市立高等学校と改称<br>「火の国まつり」開始<br>市立実務員養成所が西山中学校内に開校<br>市立熊本保健所を上林に新設<br>市立民生病院は市立熊本市民病院となる       | 1950 朝鮮戦争起こる<br>1951 サンフランシスコ講和条約調印                      |
| 1952      | 27年 | 市立博物館開館   |  |
| 1953      | 28年 | 飽託郡田迎村、御幸村を市に編入<br>6.26大水害発生 白川の氾濫で熊本市中心に大被害<br>飽託郡池上村、高橋村、城山村を市に編入<br>熊本初の民間放送 ラジオ熊本開局<br>市立図書館が発足 | NHKテレビ放送開始   |



旧市役所庁舎



長六橋



熊本動物園



市勸業館



市消防本部



熊本博物館(第1館)



6.26 熊本大水害

| 西暦   | 和暦  | 熊本市の動き  |
|------|-----|---|
| 1954 | 29年 | 上益城郡秋津村を市に編入<br>市電開通30年記念「熊本交通観光大博覧会」開催                               |
| 1955 | 30年 | 飽託郡松尾村を市に編入   |
| 1956 | 31年 | 託麻村の保田窪、新南部と合併  |
| 1957 | 32年 | 市立高等学校に商業科を併設<br>飽託郡小島町、龍田村を市に編入<br>7.26大水害発生 井芹川・坪井川氾濫 金峰山周辺で山津波     |
| 1958 | 33年 | 飽託郡中島村を市に編入<br>小島下町、沖新地先と合併   |
| 1959 | 34年 | 市立高等学校商業科が分離独立し、市立商業高等学校となる<br>市立実務員養成所が市立実務商業学校と改称                   |
| 1960 | 35年 | 健軍町に熊本空港開港<br>「愛市憲章」を制定<br>熊本城天守閣再建、落成<br>第15回国体夏季大会を開催               |
| 1962 | 37年 | 天守閣再建記念「躍進熊本大博覧会くまもと博」開催  |
| 1964 | 39年 | 市第一次総合計画策定  |
| 1965 | 40年 | 市内の全小学校にプール完成   |
| 1967 | 42年 | 県庁が桜町から水前寺に移転   |
| 1968 | 43年 | 市民会館開館  |
| 1969 | 44年 | 熊本交通センター開所<br>江津湖畔に水辺動物園が開園、熊本動物大博覧会を開催<br>「熊本市章」決まる                  |
| 1970 | 45年 | 飽託郡託麻村を市に編入   |
| 1971 | 46年 | 勤労青少年ホームが新屋敷に落成<br>新熊本空港が高遊原に開港<br>九州縦貫自動車道(熊本-植木間)開通                 |
| 1972 | 47年 | 市議会が「森の都宣言」決議   |
| 1974 | 49年 | 市の木に「イチヨウ」、市の花に「肥後ツバキ」を制定   |
| 1975 | 50年 | 金峰山少年自然の家が開所  |
| 1976 | 51年 | 市議会が「地下水保全都市宣言」決議   |
| 1977 | 52年 | 人口が50万人を突破  |
| 1978 | 53年 | 新しい熊本博物館が開館   |
| 1979 | 54年 | 新しい市民病院を開設<br>市立実務商業学校が市立実務商業専門学校と改称<br>市が「健康都市」宣言<br>中国・桂林市と友好都市提携締結 |
| 1980 | 55年 | 水害で約16,900人の市民が罹災   |
| 1981 | 56年 | 産業文化会館が開館<br>新市庁舎建設完成   |
| 1982 | 57年 | 北部保健センター開所、横井小楠記念館開所、四時軒復元(横井小楠家塾)<br>市立図書館が完成                        |
| 1984 | 59年 | 市の鳥として「シジュウカラ」を制定   |
| 1986 | 61年 | 総合体育館、青年会館開館  |
| 1987 | 62年 | 米国・サンアントニオ市と姉妹都市提携締結  |

| 世の中の動き                                     |
|--|
| 日ソ国交回復<br>5000円札、100円硬貨の発行<br>東京都市圏人口が世界一に |
| 1万円札発行、国民皆保険と拠出制国民年金が発足<br>阿蘇山噴火           |
| NHKカラーテレビ放送熊本で開始                           |
| 東京オリンピック開催                                 |
| 大阪で日本万国博覧会開催                               |
| 沖縄返還協定調印<br>札幌で冬季オリンピック開催                  |
| ソ連チェルノブイリ原子力発電所事故                          |



熊本城



新市庁舎

| 西暦        | 和暦  | 熊本市の動き   | 世の中の動き                                    |
|-----------|-----|--|---|
| <b>平成</b> |     |  |   |
| 1989      | 元年  | 市制施行100周年記念行事「熊本百彩」開催<br>流通情報会館開館  | 消費税制度スタート<br>ベルリンの壁崩壊                     |
| 1990      | 2年  | 「総合婦人会館・カルチャーセンター」開館<br>「水資源国際会議」を開催<br>「市民長寿社会憲章」を制定<br>「水の科学館」開館   |   |
| 1991      | 3年  | 熊本市と飽託郡4町(北部・河内・飽田・天明)が合併<br>熊本市立実務商業専門学校が市立総合ビジネス専門学校と改称し、移転<br>南部総合スポーツセンター開館<br>水辺動物園と都市緑化植物園が一体化 動植物園として開園 | 台風19号による大災害                               |
| 1992      | 4年  | 独国・ハイデルベルク市との友好都市締結  | 日本人初の宇宙飛行士、毛利衛<br>アメリカ、スペースシャトル・エンデバーで宇宙へ |
| 1993      | 5年  | 上級武家屋敷・旧細川刑部邸移築・復元<br>「火の国フェスタ・くまもと'93」が開催<br>93ゆうあいピック熊本大会開催  |   |
| 1994      | 6年  | 国際交流会館開館<br>「市民子ども憲章」制定<br>福井市と姉妹都市締結  | 日本人宇宙飛行士、向井千秋<br>アメリカ、スペースシャトル・コロンビアで宇宙へ  |
| 1995      | 7年  | 子ども文化会館開館、健軍文化ホール開館<br>ローム市(アメリカ)と姉妹都市締結<br>環境総合センター完成   | 阪神・淡路大震災                                  |
| 1996      | 8年  | 市が「平和都市」宣言(戦後50年)<br>市が「環境保全都市」宣言<br>中核市に移行<br>熊本市優待証(さくらカード)運用開始<br>第1回くまもとお城まつり開幕                            | 地下鉄猛毒サリンガス事件                              |
| 1997      | 9年  | 97男子世界ハンドボール選手権大会開催<br>国内初の超低床電車運行開始   |   |
| 1998      | 10年 | 熊本城復元基金制度が発足<br>市総合屋内プール「アクアドームくまもと」完成<br>「中核市サミット'98in 熊本」開催  | 長野オリンピック開催                                |
| 1999      | 11年 | 市議会が「スポーツ都市宣言」決議<br>第54回国体「くまもと未来国体」開催<br>第35回全国身体障害者スポーツ大会「ハートフルくまもと大会」開催<br>第20回記念国際・全国マスターズ陸上競技選手権熊本県大会を開催  | 情報公開法成立                                   |
| 2000      | 12年 | 市立商業高等学校が市立千原台高等学校と改称  |   |
| 2001      | 13年 | 市立高等学校が市立必由館高等学校と改称<br>「ひのくに新世紀総体」開催   |   |
| 2002      | 14年 | 市現代美術館開館<br>国際環境都市会議くまもと2002開催   | アメリカ同時多発テロ事件                              |
| 2003      | 15年 | 託麻スポーツセンター体育館開館<br>市議会が「観光立市くまもと」都市宣言決議<br>アジア太平洋都市サミット第5回実務者会議開催  | イラク戦争勃発<br>個人情報保護法成立                      |



市制100周年



飽託4町合併



熊本市動物園



熊本国体

| 西暦   | 和暦   | 熊本市の動き   |
|------|------|--|
| 2004 | 16年  | 市政情報プラザ開設<br>個人情報保護に関する条例施行  |
| 2006 | 18年  | 「熊本市圏及び政令指定都市についての研究会」設置<br>世界女性スポーツ会議くまもと開催<br>熊本オフィシャルウォーター「熊本水物語」を発表  |
| 2007 | 19年  | 熊本城築城400年<br>熊本市中心市街地活性化基本計画認定   |
| 2008 | 20年  | 「ウェルパルクまもと」開館<br>熊本城本丸御殿復元完了<br>日本水大賞グランプリを受賞<br>熊本市と富合町が合併  |
| 2009 | 21年  | 熊本城復元募金新「一口城主制度」が始まる<br>家庭ごみの有料化開始<br>「わくわく都市くまもと」宣言   |
| 2010 | 22年  | 熊本市と城南町、植木町が合併<br>大韓民国蔚山広域市友好協力都市協定締結  |
| 2011 | 23年  | 九州新幹線全線開業<br>「桜の馬場城彩苑」開館<br>「くまもと森都心プラザ」開館   |
| 2012 | 24年  | 熊本上海事務所開設<br>第1回熊本城マラソン開催<br>政令指定都市となる   |
| 2013 | 25年  | 仏・エクサンプロヴァンス市交流都市協定締結<br>国連“生命の水”(Water for life)最優秀賞受賞<br>中国・蘇州国家高新区交流都市協定締結<br>台湾・高雄市国際交流促進覚書締結<br>アジア太平洋都市サミット開催<br>全国豊かな海づくり大会開催 |
| 2014 | 26年  | 新型超低床市電(COCORO)の運行開始   |
| 2015 | 27年  | 熊本市営バス運行終了<br>海フェスタくまもと開催  |
| 2016 | 28年  | 近隣市町村と「熊本連携中枢都市圏構想」を進めていくための連携協約を締結<br>熊本地震 発生   |
| 2018 | 30年  | 大規模改装のため長期休館していた市立熊本博物館が再開   |
| 2019 | 令和元年 | 熊本市市民病院の建て替え完了<br>熊本城ホール完成   |
| 2020 | 2年   | 新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベントの中止や、市有施設が利用休止となる   |

| 世の中の動き                                      |
|---|
| 2005 尼崎市で JR 福知山線脱線事故                       |
| 裁判員制度始まる                                    |
| 九州南部で口蹄疫の感染広がる                              |
| 東日本大震災、福島第一原子力発電所事故                         |
| 九州北部豪雨                                      |
| マイナンバー制度 運用開始<br>改正公職選挙法が施行<br>選挙権年齢が18歳以上に |
| ラグビーワールドカップ2019開催<br>2019女子ハンドボール世界選手権大会 開催 |
| 新型コロナウイルス感染症が世界中で流行                         |
| 令和2年7月豪雨 発生<br>国勢調査実施100年目                  |



九州新幹線全線開業



政令指定都市移行記念式典



第1回熊本城マラソン開催



第33回全国豊かな海づくり大会



新型超低床市電(COCORO)の運行開始

# 名誉市民



**徳富 蘇峰氏**  
(本名:猪一郎)  
昭和30年(1955年)  
1月1日顕彰

明治一昭和期の新聞人・歴史家。熊本洋学校・同志社に学び上京、帰郷して自由民権運動に参加し、大江義塾を開設。明治20年(1887年)民友社を設立「国民之友」、明治23年(1890年)「国民新聞」を発行。「近世日本国民史」100巻を完結。生涯300冊の著作を残した。文久3年(1863年)1月25日生まれ、昭和32年(1957年)11月2日逝去、94歳。



**高橋 守雄氏**  
昭和30年(1955年)  
1月1日顕彰

第7代熊本市長として、歩兵第23連隊の移転・市電・上水道の開設の三大事業を完遂、市の近代化、発展繁栄に尽くした。また、教育者として東洋語学専門学校校長、熊本商科大学長を歴任、郷土教育の振興育成に努力した。明治16年(1883年)1月1日生まれ、昭和32年(1957年)5月6日逝去、74歳。



**細川 護立氏**  
昭和35年(1960年)  
4月1日顕彰

旧肥後藩主細川家16代当主。有斐学舎舎長、肥後奨学会設立、多額の奨学金を出資して本県出身者の育成援護に尽くした。国の文化財保護委員会委員として、本市の重要文化財、史跡、名勝等の保存活用に貢献した。明治16年(1883年)10月21日生まれ、昭和45年(1970年)11月18日逝去、87歳。



**福田 令寿氏**  
昭和35年(1960年)  
4月1日顕彰

医師、教育者、社会事業家。熊本英学校で海老名弾正らに学び受洗。エジンバラ大医学部卒。産婦人科病院開業の傍ら無料診療所紫苑会治療所を創立。県医師会長、公選の県教育委員長、大江高校校長、県社会福祉協議会会長、熊本YMCA理事長、県原水禁理事長など歴任。キリスト教信仰に基づく生涯を貫いた。明治5年(1872年)12月7日生まれ、昭和48年(1973年)8月7日逝去、100歳。



**宇野 哲人氏**  
昭和44年(1969年)  
10月1日顕彰

漢学者。東京大学名誉教授。東方文化学院院長、実践女子大学学長、東方学会会長を歴任。清国(中国)に留学して支那学を、ドイツで西洋哲学を学んだ。西洋哲学の方法を用いた中国哲学の叙述は一世を風靡した。明治8年(1875年)11月15日生まれ、昭和49年(1974年)2月19日逝去、98歳。



**堅山 南風氏**  
昭和44年(1969年)  
10月1日顕彰

日本画家。明治42年(1909年)、22歳のとき上京。大正2年(1913年)第7回文展に「霜月頃」が初入賞。その後、横山大観に師事した。昭和13年(1938年)、文展審査員。戦後は文化勲章受章など日本画壇の重鎮となる。代表作に日光輪王寺薬師堂天井画「鳴竜図」、熊本市市民会館級帳「火の国讃舞」などがある。明治20年(1887年)9月12日生まれ、昭和55年(1980年)12月30日逝去、93歳。



**後藤 是山氏**  
(本名:祐太郎)  
昭和54年(1979年)  
10月1日顕彰

新聞人、俳人。九州日日新聞社入社後、国民新聞社に留学、徳富蘇峰の薫陶を受けた。帰熊後九州日日新聞社の主筆、編集長として熊本の文化振興に貢献。昭和2年(1927年)、俳誌「かはがらし」(のち「東火」)を創刊主宰した。著書に「肥後の動皇」、編書に「肥後国誌」がある。明治19年(1886年)6月8日生まれ、昭和61年(1986年)6月4日逝去、99歳。



**中村 汀女氏**  
(本名:破魔子)  
昭和54年(1979年)  
10月1日顕彰

高浜虚子の門下生で、現代女流俳句の第一人者。常にふるさとを愛する心を底流にした“汀女俳句”は、句にふれる人々に、郷土愛を喚起させ、郷土の文化振興に貢献した。「ホトトギス」同人、「風花」を創刊主宰した。明治33年(1900年)4月11日生まれ、昭和63年(1988年)9月20日逝去、88歳。

※旧城南町及び植木町の名誉町民は、熊本市の名誉市民として継承されていきます。



**安永 露子氏**  
平成21年(2009年)  
10月1日顕彰

宮中歌会始詠進歌選者を務めるなど日本を代表する女流歌人。平成3年(1991年)には歌壇の最高賞である遼空賞を受賞。また、書家としても顕著な功績を取る。熊本県教育委員会委員長、熊本県文化協会会長などの要職を歴任、本市の教育・文化の発展に多大な功績。勲四等瑞宝章受章。くまもと県民文化賞受賞。熊本県近代文化功労者。大正9年(1920年)2月19日生まれ、平成24年(2012年)3月17日逝去、92歳。

## 旧城南町



**上塚 周平氏**  
昭和50年(1975年)  
10月17日顕彰

「ブラジル移民の父」と呼ばれ、明治41年(1908年)に第1回移民船「笠戸丸」の監督としてブラジルに渡り、ブラジルにおける日系社会の確固たる基盤を築いた。また、その功績から、ブラジルのサンパウロ州には氏の名前を付けられた道路や公園、橋があるほか、遺徳を称える記念碑なども残されている。明治9年(1876年)7月12日生まれ、昭和10年(1935年)7月6日逝去、58歳。



**上塚 司氏**  
昭和53年(1978年)  
3月23日顕彰

大蔵大臣秘書官、大蔵政務次官、農商務大臣、商工大臣などの要職を務め、この間、アマゾン開発に全力を傾け、ブラジル移民の道を開いた。その後、日伯中央協会の理事や名誉顧問を歴任。ブラジル大統領から最高勲章を授与されるなど、日伯国交樹立等に対する功績が高く評価されている。明治23年(1890年)5月1日生まれ、昭和53年(1978年)10月22日逝去、88歳。



**林田 正治氏**  
昭和53年(1978年)  
3月23日顕彰

台湾の台南州内務部長、澎湖庁長、新竹州知事を務めた後、衆議院議員、第16代熊本市長を経て参議院議員となり、北海道開発政務次官、地方行政委員長等を歴任。その業績は高く評価されている。明治25年(1892年)8月3日生まれ、昭和54年(1979年)12月14日逝去、87歳。



**小林 久雄氏**  
平成元年(1989年)  
9月25日顕彰

熊本県医師会副会長、下益城郡医師会長などを歴任し、健康保険の普及等に尽力した後、旧城南町の初代町長に就任。若くから人類学、考古学に関心があり、生涯をかけて研究された資料は「小林コレクション」と呼ばれ、約2万点の遺物が塚原歴史民俗資料館に寄贈されており、国指定重要文化財の「台付舟形土器」など、一部は現在も展示されている。明治28年(1895年)6月4日生まれ、昭和36年(1961年)8月26日逝去、66歳。



**東家 嘉幸氏**  
平成12年(2000年)  
3月22日顕彰

衆議院議員として建設政務次官や衆議院建設常任委員会委員長などの要職を歴任。平成3年(1991年)には国土庁長官に就任した。この間、国や熊本県、旧城南町の発展のために活躍し、数々の功績を残している。昭和2年(1927年)10月1日生まれ、平成18年(2006年)1月26日逝去、78歳。

## 旧植木町



**境 米蔵氏**  
昭和51年(1976年)  
6月30日顕彰

県議会議員を経て、旧植木町初代町長(通算4期)。旧町の産業・経済発展の礎を築いた。開田事業による農業の構造改革及び企業誘致により地域の発展に貢献した。また、西南の役田原坂を公園化し、戦跡の保存・観光振興に努めた。明治30年(1897年)10月20日生まれ、昭和53年(1978年)1月2日逝去、80歳。



**木村 学氏**  
昭和58年(1983年)  
6月21日顕彰

旧植木町教育長。徹底した住民対話型の公民館活動により地域社会の近代化に貢献した。第4代植木町長として住民福祉の向上に努める一方、文芸作家として生涯にわたる執筆活動、郷土史研究により、郷土の文化振興に貢献した。明治38年(1905年)1月21日生まれ、平成6年(1994年)3月21日逝去、89歳。



## 熊本市章

ひらがなの「く」の字を図案化したもので、市民の調和を基とし、たくましく発展する熊本市の姿を太い円で示したものです。

(昭和44年(1969年)8月1日制定)

Kumamoto City Song

## 熊本市歌

作詞/東岡 正治 作曲/鳥飼 哲夫 編曲/坂本英二  
(昭和5年(1930年)3月制定)

- 一、<sup>れいほう あそ はる のぞ みず</sup> 霊峰阿蘇を遥かに望み 水白川の流りに沿いて  
<sup>てんかになだたる こじょう</sup> 天下に名だたる古城の都 われらの都 大熊本市
- 二、<sup>ときわ みどり つつ</sup> 常磐の緑いらかを包み 森の都と世に謳われて  
<sup>ぶん うん</sup> 文運さかゆる平和の都 われらの都 大熊本市
- 三、<sup>りっし いとな</sup> 商工立市の営みしげく いま新興の光に満ちて  
<sup>せい き</sup> 生氣ぞあふるる文化の都 われらの都 大熊本市
- 四、<sup>かがや しんしゅ はた</sup> 輝く進取の旗ひるがえし 西日本の最中に立ちて  
<sup>いざいざ きず り ろう</sup> いざいざ築かむ理想の都 われらの都 大熊本市



## 熊本市 市勢要覧 2021



## 市の木 イチヨウ

(イチヨウ科)

熊本市民には熊本城が銀杏城といわれているようになじみ深く、強健で樹齢が長く、市街地の街路に多く植栽され、独特な尖円錐形の樹形をつくり春の緑陰、秋の黄葉とその美しさでよく知られている。

(昭和49年(1974年)10月9日制定)



## 市の花 肥後椿

(ツバキ科)

江戸時代から細川藩の庇護を受け、藩士をはじめ寺社地の豪族等の愛好家によって広められ改良を重ねて、清雅枯淡の味わいある銘花となったといわれている。肥後椿の特色は薄色の花弁が主流でよく整った一重咲きで、中心に金糸銀糸のような色鮮やかな太い雄しべが梅芯のように盛りあがるところにある。(昭和49年(1974年)10月9日制定)



## 市の鳥 シジュウカラ

全長約14.5cmで、美しい澄んだ声でさえずり、多量の害虫を食べ、緑を守る益鳥として市民に親しまれている。金峰山や立田山、託麻三山など森に多く生息し白い胸に黒ネクタイ状の帯が目立つ可愛い姿で、四季を通じて観察される。

(昭和59年(1984年)5月22日制定)

City of Kumamoto

令和3年(2021年)8月発行

発行人/熊本市総務局行政管理部総務課  
〒860-8601 熊本市中央区手取本町1番1号  
TEL 096-328-2380